令和５年度

豊田市教育国際化推進連絡協議会

専門委員会活動報告集

第３６集

目　　次

Ⅰ　豊田市教育国際化推進連絡協議会について

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会会則・・・・・・・・・・１～２

・　令和５年度　事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

・　資料１：組織と活動、資料２：ユニットアシスト制・・・・・４

・　成果と課題、委員会の再編成と名称変更・・・・・・・・・・・５

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会　役員・・・・・・・・・・・６

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会　委員・・・・・７

Ⅱ　令和５年度　専門委員会活動報告

１　調査委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１２

２　相談委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１２

３　指導研究委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～　８

４　情報委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１４

５　国際理解委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１０

６　研修委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～　６

「豊田市教育国際化推進連絡協議会」会則

第１章　名称及び事務局

第１条　本会は、豊田市教育国際化推進連絡協議会(略して国際協)と称する。

第２条　本会の事務局は、豊田市教育委員会学校教育課に置く。

第２章　目的及び事業

第３条　本会は、豊田市の教育国際化を推進するため、帰国児童生徒及び外国人児童生徒等の個に応じた特色ある教育活動のあり方及び一般生徒との相互啓発による国際理解教育の推進のあり方について学校と地域との連携により研究実践を行うことを目的とする。

第４条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）市内における帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態調査

（２）帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態に応じた受入指導

（３）帰国児童生徒・外国人児童生徒等に対する適応相談

（４）学校間の情報交換と連絡協議、担当者の研修

（５）教育センターへ研究・実践資料の提供

（６）海外に滞在する豊田市から転出した児童生徒に対する学習相談と指導資料の提供

（７）国際化推進、国際理解教育にかかわる教育課程・指導法の研究

（８）その他目的達成に必要な事項

第３章　会員及び役員

第５条　本会の会員は、豊田市の次の機関、団体の構成員とする。

（１）豊田市教育委員会

（２）各小・中学校及びこども園

（３）高等学校

（４）海外進出している企業及び外国人労働者を雇用している企業

（５）国際交流組織

（６）豊田市役所関係部署

（７）国際理解教育や外国人児童生徒等教育に関わるＮＰＯ法人

第６条　本会に次の役員・理事・専門委員を置く。

（１）会長１名

（２）副会長　２名

（３）理事　若干名

（４）専門委員　若干名

第７条　本会の役員・理事・専門委員の任務は、次の通りとする。

（１）会長は本会を代表し、会務を総括する。

（２）副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは代行する。

（３）理事は、年間事業計画等、重要事項の審議ならびに研究・推進の全体調整・連絡にあたる。

（４）専門委員は本会の事業・研究・実践にあたる。

第８条　役員・理事・専門委員の選出は、次の通りとする。

（1）理事は会員のうちから選出する。
（2）会長・副会長は理事のうちから選出し、理事会で承認を得る。
（3）専門委員長は、理事のうちから選出し、理事会で承認を得る。
（4）専門委員は、会員のうちから選出し、理事会で承認を得る。
第９条　　役員・理事・専門委員の任期は１年とする。但し、再任は妨げない。
第１０条　庶務・会計は、豊田市教育委員会学校教育課の職員とする。
第１１条　本会に顧問を置くことができる。

第４章　会　議
第１２条　本会の会議は、理事会、専門委員会(調査、相談、指導研究、情報、国際理解、研修)とする。
（1）理事会は、事業計画・事業報告・重要事項等を審議し、会員に報告する。
（2）専門委員会は、必要に応じて開催し、事業の企画・実践・運営・とりまとめにあたる。

第５章　会　計
第１３条　本会の経費は、市費による。

第６章　会則の改正
第１４条　本会則を改正するには、理事会で承認をうける。

附　則
本会則は、昭和６３年７月１日から施行する。

平成　５年	一部改正	外国人子女に関する件
平成１０年	一部改正	帰国子女を帰国児童生徒に、外国人子女を外国人児童生徒に名称変更
平成１１年	一部改正	会員に関する件　（ ※国際交流協会が参加 ） 専門委員会に関する件（ ※外国人児童生徒委員会を追加 ）
平成１３年	名称改正	豊田市教育国際化推進連絡協議会に名称変更
	一部改正	目的および会員に関する件 （ ※外国人児童生徒教育を含めた目的及び事業に変更 ） （ ※担当者の研修を追加 ）
平成１４年	略称改正	国際協に略称変更
	一部改正	会員に関する件（ ※副会長を２名に変更 ）
平成１８年	一部改正	会員に関する件（ ※外国人労働者を雇用している企業を追加 ） 役員・理事・専門委員の選出に関する件 （ ※理事の教育委員会議での承認) 会議に関する件（ ※総会、役員会を廃止 ）
平成２２年	一部改正	役員・理事・専門委員の選出に関する件 （ ※理事の教育委員会議での報告 ）
平成２４年	一部改正	会議に関する件（ ※専門委員会名称変更 ）
令和　元年	一部改正	会員及び役員に関する件（※ＮＰＯ法人を追加 ）
令和　３年	一部改正	外国人児童生徒を外国人児童生徒等に名称変更
令和　５年	一部改正	第４条（６）指導資料の提供を削除（令和６年度より） 第１２条　専門委員会の再編成と名称変更（令和６年度より）

令和５年度豊田市教育国際化推進連絡協議会事業計画

＜令和５年度取組の重点取組項目＞

豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会で実施する「ユニットアシスト制」の周知と活用促進

１　各専門委員会の事業内容の見直しと、専門委員会の効果的な活用

２　各専門委員会の活動とユニットを活用した国際理解教育の強化

３　第３次豊田市国際化推進計画の推進と、国際協と連携した取組の実現

専門委員会名	事業内容
調査委員会	１　帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態把握 ２　帰国児童生徒・外国人児童生徒等の指導上の課題把握 ３　国際理解活動実施状況調査 ４　専門委員会活動報告集（第３６集）発刊
相談委員会	１　帰国児童生徒等保護者懇談会等の実施 期日：令和５年８月５日（土）午前開催 ２　海外出国児童生徒への学習資料の送付（今年度で終了） ３　相談窓口の継続 ４　相談内容や情報Ｑ&Ａのまとめ
指導研究委員会	１　「豊田市外国人児童生徒等日本語教育」（仮）の作成 ※第３次豊田市国際化推進計画（概要版）参照 ２　「ＤＬＡ」や「日本語教育の要点」について、研修会資料の作成 ※研修委員会でのグループリーダー ３　日本語指導の資料や教材の整理、広報
情報委員会	１　外国人児童生徒等保護者教育説明会の実施 期日：令和５年７月２２日（土）午前開催 ２　各種情報提供用のリーフレット等作成・配布 ※進路指導資料の作成　⇒　進路指導部会（校長会）との連携
国際理解委員会	１　国際理解教育の推進　⇒　調査委員会の資料を活用した「国際理解教育」指導案の作成（道徳・学級活動・総合的な学習） ２　豊田市の国際化の現状把握と外国人児童生徒等への理解の推進
研修委員会	外国人児童生徒等指導者研修会の開催（年３回） ・外国人児童生徒等教育の課題把握、情報交換会 ・日本語指導に関する研修（DLA など） ・教科学習に関する研修（リライト教材など） ・ワークショップ型の研修を実施 ①　６月１３日（火）開催　13：30 ②　７月１９日（水）開催　14：00 ③　８月２２日（火）開催　14：00

資料１　国際協　組織と活動

豊田市教育国際化推進連絡協議会

○目的

学校と地域との連携による研究実践　（３６年間の実践の積み重ね）

- 個に応じた特色ある教育活動　帰国児童生徒・外国人児童生徒等
- 国際理解教育の推進　全ての児童生徒

→ **教育国際化の推進**

○組織と活動

会長（教育長）

副会長（校長代表、企業代表）

理事（高等学校長、企業代表、国際交流協会専務理事、NPO法人代表、専門委員会委員長、こども園長代表、国際まちづくり推進課長、保育課長）

専門委員　（校長、教頭、教諭、国際交流協会職員、国際まちづくり推進課員）

西保見小	校　長	小笠原明恵
豊南中	教　頭	北島加奈子
平井小	教　務	樋口　和幸
大林小	教　諭	小野　高明
保見中	教　諭	野入はる香
東保見小	教　諭	中島　麻恵
西保見小	教　諭	松本　友美

保見中	校　長	佐藤　正一
高岡中	教　頭	本林　初代
前山小	教　務	長崎　知一
西保見小	教　諭	山本　奈々
野見小	教　諭	光安　舞
小清水小	教　諭	高木　好枝

東保見小	校　長	小川　敬子
東山小	教　頭	萩原　由道
西保見小	教　務	津村　智宏
益富中	教　諭	澤田　義正
末野原中	教　諭	森　博臣
東保見小	教　諭	田畑　ユキ
ことばの教室	学校日本語	金田エリザ
国際まちづくり推	主　事	近藤　裕里

朝日小	校　長	柴田みどり
若園小	教　頭	東　優志
青木小	教　務	近藤　清人
平和小	教　務	近野　義徳
崇化館中	教　諭	小澤　信弥
浄水小	教　諭	油井　徳子
国際交流協会	主　任	宇野　智子

若林東小	校　長	田口　真穂
高嶺小	教　頭	小川　範人
梅坪小	教　務	成田真里子
若林西小	教　務	高木　哲也
美山小	校　務	大塚小百合
市木小	校　務	平岩　紘一
竹村小	教　諭	後藤真理子

平井小	校　長	尾坂　宏樹
大林小	教　頭	黒田　浩司
逢妻中	教　務	岡崎　達郎
堤小	教　務	浅野　直子
高橋中	教　諭	鈴木　佑典

指導研究委員会
日本語教育カリキュラム　DLA研修資料作
- 日本語指導カリキュラム
- DLAの研修資料作成
- 既存の教材紹介

研修委員会
外国人児童生徒等指導者研修会実施
- 外国人児童生徒等サポートセンターとの連携
- ことばの教室との連携
- 指導者のための学習会開催
- 研修運営（6/13，7/22，8/22）

情報委員会
外国人児童生徒等・保護者への情報発信（進路）
- 説明会（7/22）実施（進学・就職の方法と試験、学費等について）
- 日本の学校生活についてのリーフレット作成

相談委員会
海外出国・帰国児童生徒に関する相談
- 海外の児童生徒への教材送付
- 懇談会（8/5）実施（帰国後の入試や在留中の留意点について等）
- 出国・帰国Q&Aまとめ

国際理解委員会
国際理解教育の推進
豊田市の国際化の現状理解
- 国際理解教育のための指導案作成
- 国際交流協会との連携推進
- 国際理解教育支援

調査委員会
様々な調査・統計実施
- 海外出国・帰国児童生徒
- 外国人児童生徒等
- 国際理解教育に関する調査
- 専門委員会活動報告集作成

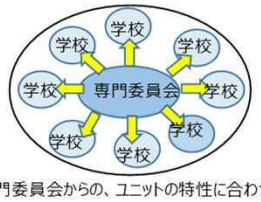
資料２　ユニットアシスト制

ユニットアシスト制

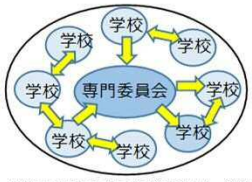
・・・専門委員会と学校が連携するための基盤を作る

ユニットを作る　→　**ネットワークができる**　→　**教育国際化推進**

実情が似ている学校同士



専門委員会からの、ユニットの特性に合わせた情報提供・研修などからスタート



共通の課題を抱えた学校同士・学校と委員会が交流を重ね、連携を強めていく

- 個に応じた特色ある教育の充実
- 国際理解教育の推進

【ユニット】

日本語教育適応学級担当教員の

Ⅰ　集住共生ユニット（多くの外国人児童生徒在籍）

西保見	保見中
東保見	高橋中
小清水	逢妻中
平井	
東山	
若林東	
大林	
7校	3校

西保見・保見中の取組を広げる
日本語教育推進教材提供

Ⅱ　散在受入ユニット

加配がある		学校日本語指導員の配置がある			特別の教育課程を編成していない		
挙母	高岡中	根川	平和	猿投中	大畑	花山	上郷中
童子山	美里中	伊保	広川台	竜神中	駒場	稲武	若園中
前山	末野原中	寿恵野	石畳	浄水中	御作	畝部	石野中
美山	崇化館中	高嶺	飯野	朝日丘中	寺部	足助	小原中
野見		若林西	四郷	藤岡中	加納	則定	足助中
竹村	4校	元城	中山	藤岡南中	東広瀬	井上	
市木		梅坪	土橋	梅坪台中	13校		5校
朝日		衣丘		前林中			
浄水				益富中			
堤				松平中			
10校		15校		10校			

外国人児童生徒等の個に応じた指導の充実を図る
（外国人児童生徒等サポートセンターやことばの教室との連携、DLA・JSL カリキュラムの周知、UD 授業の実践推進など）

Ⅲ　帰国出国ユニット（帰国子女が多く在籍）

浄水北	豊南中
若園	猿投台中
青木	井郷中
古瀬間	
山之手	
5校	3校

帰国出国児童生徒等の支援の充実

Ⅳ　国際理解ユニット（外国人児童生徒が少ない）

西広瀬	九久平	小原中部	旭中
矢並	滝脇	冷田	稲武中
道慈	豊松	追分	下山中
五ケ丘東	岩倉	佐切	
幸海	大沼	萩野	
大蔵	巴ケ丘	明和	
敷島	本城	新盛	
五ケ丘	御蔵	小渡	
中金	上鷹見		
26校			3校

国際理解教育の推進

【ユニットの運用方法】

専門委員会
→研究・実践の焦点化・情報提供を図る→使える資料、使える情報
→ユニットからの相談に対し、適切な情報を発信

各学校　＊各委員会のユニット相談窓口に相談
→ユニット内でも、情報交換
→要望等をユニット相談窓口に伝え、適切な支援を得て、困り感の解決・実践の充実

「ユニットアシスト制」の周知と活用促進の成果と課題

・令和４年度、各専門委員会と学校が連携するための基盤を作るためにユニットアシスト制を導入し、今年度も継続した。
・校長会議、外国人児童生徒等指導者研修会、各専門委員会等で、ユニットアシストや国際協の活動についての説明をし、周知と活用促進を行った。
・各委員会に、ユニット相談窓口（担当者）を置き、相談しやすい仕組みを作った。
・ユニットアシスト制の周知と活用促進は、十分ではなかったが、各所での周知により、国際協の活動を広め、国際協作成の資料や教材を活用したという声が上がっている。
・外国にルーツをもつ児童生徒等が増加していることを踏まえ、今後も各専門委員会と学校が連携し、教育国際化を推進していく。

委員会の再編成と名称変更

令和５年５月１６日に開催した豊田市教育国際化推進連絡協議会において、委員会の再編成と名称変更が承認された。令和６年度より、下記のように委員会を変更する。

調査委員会	校長 教頭 教務主任 校務主任 教諭	調査委員会	校長 教頭 ~~教務主任~~ 校務主任 教諭
相談委員会	校長 教頭 教務主任 校務主任 校務主任 教諭 主任	**帰国出国サポート委員会**	校長 教頭 教務主任 校務主任 ~~校務主任~~ 教諭 主任
情報委員会	校長 教頭 教務主任 校務主任 教諭 教諭 学校日本語指導員 主査	**外国人児童生徒等支援委員会**	校長 教頭 教務主任 校務主任 教諭 教諭 学校日本語指導員 主査
国際理解委員会	校長 教頭 教務主任 校務主任 校務主任 校務主任 教諭	国際理解委員会	校長 教頭 教務主任 校務主任 校務主任 ~~校務主任~~ 教諭
研修委員会	校長 教頭 主幹教諭 教務主任 校務主任 教諭	**研修委員会**	~~校長~~ ~~教頭~~ ~~主幹教諭~~ ~~教務主任~~ ~~校務主任~~ ~~教諭~~
指導研究委員会	校長 教頭 教務主任 教務主任 校務主任 教諭 教諭		校長 教頭 教務主任 教務主任 校務主任 教諭 教諭

・委員会の名前を、活動内容が分かりやすいように変更
・学習資料送付中止による、委員数の変更

・委員会の名前を、活動内容が分かりやすいように変更

・国際理解教育の調査を、調査委員会と統合することによる委員数の変更

・研修委員会と、指導研究委員会を統合
・研修を通して、教材の作成や効果的な活用を広めていく

令和5年度　豊田市教育国際化推進連絡協議会　役員

役職名	氏　　名	職　　名
理　事	山本　浩司	豊田市教育委員会　教育長
	鈴木　直樹	豊田市小中学校長会　会長
	奥山　洋介	トヨタ自動車 人事部 海外労政室長
	髙井　俊直	愛知県立豊田西高等学校長
	杉本　明隆	愛知県立衣台高等学校長
	山崎　秀哲	トヨタツーリスト　海外渡航部 海外子女教育相談カウンセラー
	阪峯　秀明	豊田市国際交流協会専務理事
	秋山　大樹	トヨタ自動車労働組合 労働政策局長
	伊東　浄江	NPO法人　トルシーダ代表
	尾坂　宏樹	豊田市立平井小学校長
	柴田みどり	豊田市立朝日小学校長
	小笠原明恵	豊田市立西保見小学校長
	小川　敬子	豊田市立東保見小学校長
	田口　真穂	豊田市立若林東小学校長
	佐藤　正一	豊田市立保見中学校長
	二村　里美	豊田市こども園長会　会長
	谷原　美保	豊田市経営戦略部　国際まちづくり推進課長
	畔柳　隆二	豊田市子ども部　保育課長
事務局	小山　幾子	豊田市教育委員会　学校教育課長
	村瀬　春奈	豊田市教育委員会　学校教育課指導主事
	渡邉　温嫁	豊田市教育委員会　学校教育課指導主事
	平吹　洋子	外国人児童生徒等サポートセンター　アドバイザー
	神ノ川佳希	豊田市教育委員会　学校教育課主査

令和5年度豊田市教育国際化推進連絡協議会 専門委員会　委員

委　員　会　名		氏　　名	勤　務　先	役　　職
調 査 委 員 会	◎	尾坂　宏樹	平井小	校　　長
	○	黒田　浩司	大林小	教　　頭
	＊	岡崎　達郎	逢妻中	教　　務
		浅野　直子	堤小	教　　務
		鈴木　佑典	高橋中	教　　諭
相 談 委 員 会	◎	柴田　みどり	朝日小	校　　長
	○	東　　優志	若園小	教　　頭
	＊	近藤　清人	青木小	教　　務
		近野　義徳	平和小	教　　務
		小澤　信弥	崇化館中	教　　諭
		油井　徳子	浄水小	教　　諭
		宇野　智子	国際交流協会	主　　任
指導研究委員会	◎	小笠原　明恵	西保見小	校　　長
	○	北島　加奈子	豊南中	教　　頭
	＊	樋口　和幸	平井小	教　　務
		小野　高明	大林小	教　　諭
		野入　はる香	保見中	教　　諭
		中島　麻恵	東保見小	教　　諭
		松本　友美	西保見小	教　　諭
情 報 委 員 会	◎	小川　敬子	東保見小	校　　長
	○	萩原　由道	東山小	教　　頭
	＊	津村　智宏	西保見小	教　　務
		澤田　義正	益富中	教　　諭
		森　　博臣	末野原中	教　　諭
		田畑　ユキ	東保見小	教　　諭
		金田　エリザ	ことばの教室	学校日本語指導員
		近藤　裕里	国際まちづくり推進課	主　　事
国際理解委員会	◎	田口　真穂	若林東小	校　　長
	○	小川　範人	高嶺小	教　　頭
	＊	成田　真里子	梅坪小	教　　務
		髙木　哲也	若林西小	教　　務
		大塚　小百合	美山小	校　　務
		平岩　紘一	市木小	校　　務
		後藤　真理子	竹村小	教　　諭
研 修 委 員 会	◎	佐藤　正一	保見中	校　　長
	○	本林　初代	高岡中	教　　頭
	＊	長崎　知一	前山小	教　　務
		山本　奈々	西保見小	教　　諭
		光安　舞	野見小	教　　諭
		髙木　好枝	小清水小	教　　諭

◎委員長　〇副委員長　＊ユニット相談窓口

1　調査委員会活動報告

Ⅰ　調査結果の概要

1　過去３年間に帰国した児童生徒の概要

2　豊田市立の小・中学校に在籍している外国人児童生徒の概要

Ⅱ　豊田市における帰国児童生徒の実態

1　帰国児童生徒数及び在留期間別人数

2　帰国時の学年

3　在留国での就学状況

4　帰国児童生徒の推移

5　地域別・在留国別学年人数

6　中学校区別　帰国児童生徒数

7　帰国児童生徒に関するアンケート結果

Ⅲ　豊田市における外国人児童生徒の実態

1　学年別外国人児童生徒数

2　外国人児童生徒数の変遷

3　外国人生徒の中学校卒業後の進路

4　外国人児童生徒に関するアンケート結果

Ⅰ　調査結果の概要

豊田市教育国際化推進連絡協議会の調査委員会では、帰国児童生徒(過去３年間に帰国)と、外国人児童生徒(豊田市立の小中特別支援学校に在籍)を対象に、市内全小中学校と該当児童生徒の保護者の協力を得て、その実態調査を実施している。

2023年度の調査結果は以下のとおりである。

1　過去３年間に帰国した児童生徒の概要(2023年5月1日現在)

（１）　過去３年間に帰国した児童生徒数

	2022年度	2023年度	昨年比
小学校	177	174	-3
中学校	85	85	0
合計	262	259	-3

（２）　主な滞在国と児童生徒数

アメリカ	110	中国	35	タイ	30	ベルギー	29	インドネシア	4
ドイツ	4	ブラジル	3	シンガポール	3	韓国	2	マレーシア	3
カナダ	15	フィリピン	2	メキシコ	3	その他のヨーロッパ	7	南アフリカ共和国	2

（３）　主な在籍校と児童生徒数

小学校38校 174 人	山之手小	20	童子山小	13	浄水小	13	大林小	9
	寿恵野小	8	浄水北小	8	若園小	6	青木小	6
	朝日小	6	寺部小	5	土橋小	5	根川小	5
	梅坪小	4	挙母小	4	東保見小	4	高嶺小	4
中学校19校 85 人	末野原中	10	上郷中	8	朝日丘中	8	浄水中	8
	崇化館中	7	梅坪台中	5	竜神中	5	若園中	5
	美里中	4	保見中	3	豊南中	3	高岡中	3
	高橋中	3	猿投台中	2	猿投中	2	前林中	2

2　豊田市立の小中学校に在籍している外国人児童生徒の概要(2023年5月1日現在)

（１）　外国人児童生徒数

	2022年度	2023年度	昨年比
小学校	841	896	55
中学校	398	387	-11
合計	1239	1283	44

（２）　主な出身国と児童生徒数

ブラジル	659	フィリピン	170	中国	164	ペルー	76	ベトナム	64
ネパール	32	モンゴル	32	韓国	19	インドネシア	17	パキスタン	11
ボリビア	7	スリランカ	6	台湾	5	タイ	5	その他	16

（３）　主な在籍校と児童生徒数

小学校52校 （含：豊田特別支援学校小学部）	西保見	151	東保見	106	平井	59	大林	43
	小清水	36	若林東	36	美山	32	東山	32
	朝日	30	挙母	27	浄水	27	野見	24
中学校24校 （含：豊田特別支援学校中学部）	保見	134	高橋	40	美里	32	崇化館	22
	高岡	19	逢妻	19	末野原	18	朝日丘	16
	前林	9	豊南	9	猿投	8	藤岡	8

※　保見中学校区に集中が見られるが、全市的に多数の外国人児童生徒が在籍している。

Ⅱ　豊田市における帰国児童生徒の実態

（調査対象：2020年4月1日～2023年5月1日までの帰国児童生徒）

1　帰国児童生徒数及び在留期間別人数＜過去３年間に帰国＞

学年	帰国児童生徒数 過去３年間に帰国 2016.4.1～2019.5.1			在留期間別人数							
	男	女	合計	1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～6年	6～7年	7年以上
小１	7	9	16	2	3	6	4		1		
小２	11	8	19	1		7	6	3	2		
小３	16	15	31	3	4	7	8	6	2		1
小４	25	15	40		4	9	12	11	1		3
小５	19	15	34	1	7	7	8	6	5		
小６	23	11	34	2	2	10	10	5	4	1	
計	101	73	174	9	20	46	48	31	15	1	4
中１	14	19	33		1	12	7	9	3	1	
中２	13	15	28		3	9	9	3	3	1	
中３	10	14	24		3	7	7	5		1	1
計	37	48	85	0	7	28	23	17	6	3	1
合計	138	121	259	9	27	74	71	48	21	4	5

2　帰国時の学年

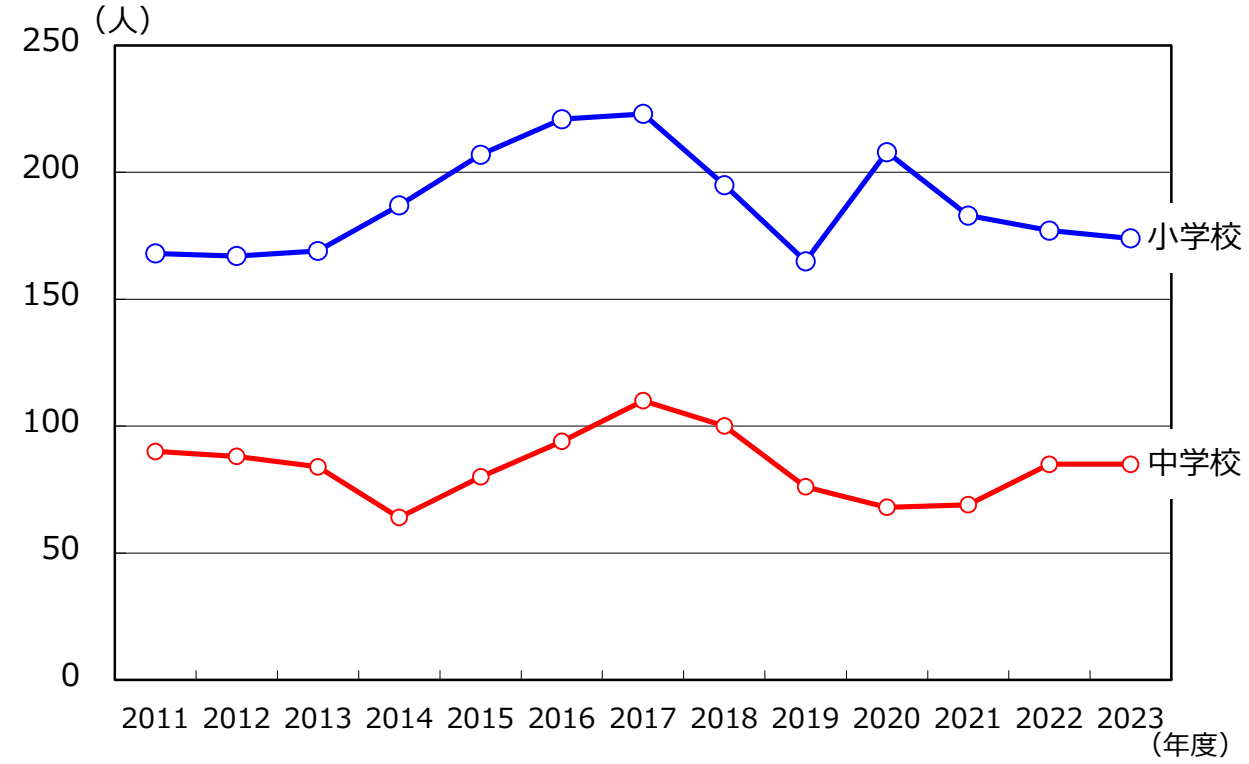
学齢	就学前	小学校						中学校			合計
		１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年	
人数	28	30	42	33	30	36	32	18	8	1	258

3　在留国での就学状況（複数回答）

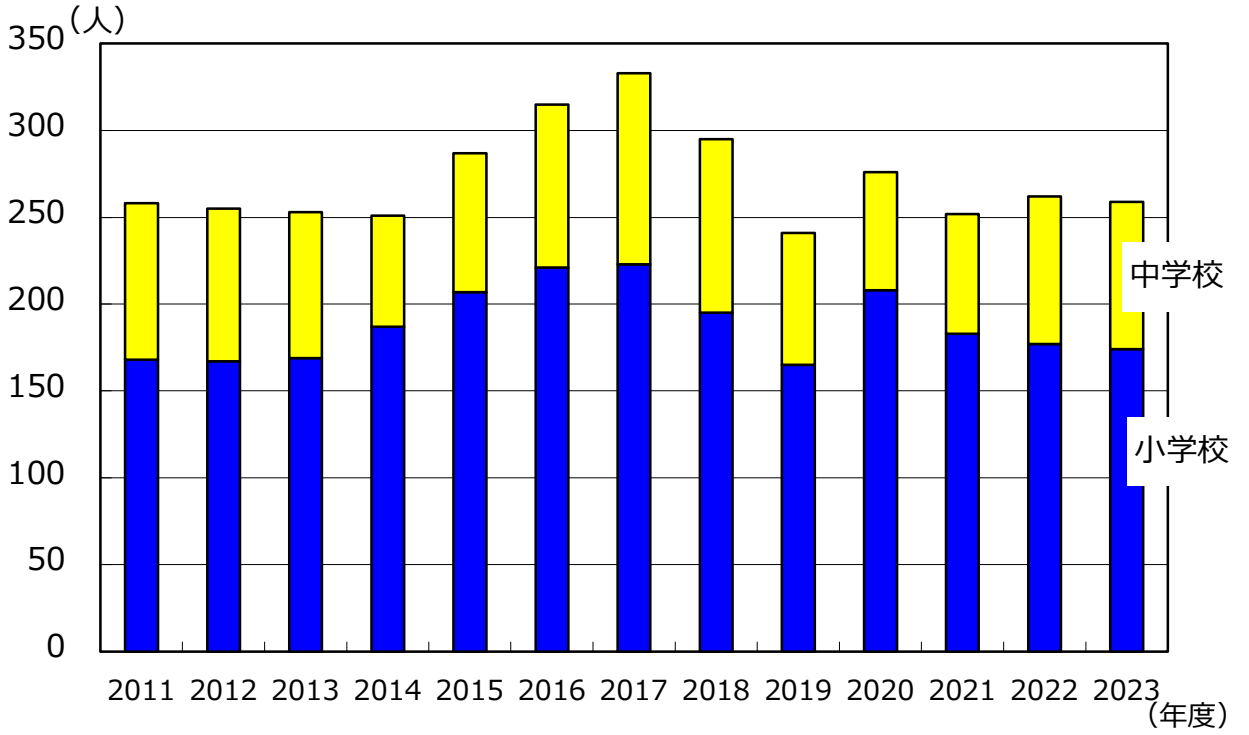
学校種別	日本人学校	現地校	国際学校	補習授業校	通信教育	就学前教育施設	その他
小学校人数	61	86	13	69	5	30	3
中学校人数	39	41	6	36	2	1	1
合計	100	127	19	105	7	31	4

4　帰国児童生徒の推移　<各年５月１日現在>

（１）小中学校別帰国児童生徒の推移



（２）帰国児童生徒数の合計と内訳



5　地域別・在留国別学年人数

（1）　アジア

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	中国	2	2	4	4	6	5	23	7	3	2	12	35
2	タイ	4	3	4	7	2	1	21	3	3	3	9	30
3	インドネシア					1		1	1	1	1	3	4
4	インド				1			1				0	1
5	フィリピン		1					1		1		1	2
6	台湾					1		1				0	1
7	シンガポール	1			1	1		3				0	3
8	マレーシア					1		1		2		2	3
9	韓国						1	1		1		1	2
10	その他			1				1				0	1
計		7	6	9	13	12	7	54	11	11	6	28	82

（2）　ヨーロッパ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	ベルギー		2	4	4	6	5	21	4	3	1	8	29
2	イギリス							0				0	0
3	ドイツ			2				2	1		1	2	4
4	チェコ							0			1	1	1
5	フランス							0				0	0
6	スウェーデン							0				0	0
7	ハンガリー							0				0	0
8	トルコ			1				1	1			1	2
9	その他			2	1		1	4	1	1	1	3	7
計		0	2	9	5	6	6	28	7	4	4	15	43

（3）　南北アメリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	アメリカ	8	8	10	19	14	16	75	12	12	11	35	110
2	カナダ	1	2	2	2	1	3	11	2		2	4	15
3	ブラジル				1		1	2	1			1	3
4	メキシコ			1				1		1	1	2	3
5	その他							0				0	0
計		9	10	13	22	15	20	89	15	13	14	42	131

（4）　アフリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	南アフリカ共和国					1	1	2				0	2
2	その他							0				0	0
計		0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	2

（5）　オセアニア

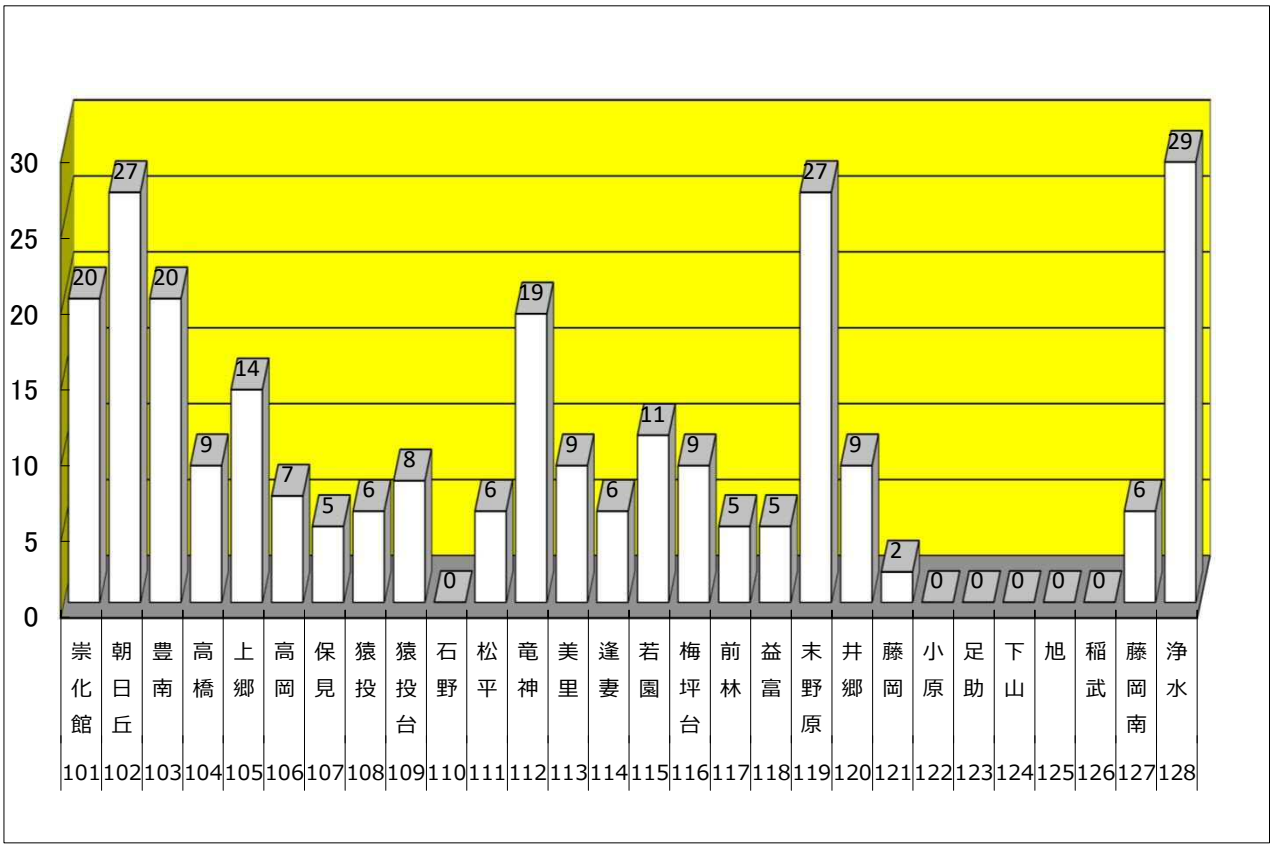
No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	オーストラリア		1					1				0	1
2	その他							0				0	0
計		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校合計
	16	19	31	40	34	34	174	33	28	24	85	259

6　中学校区別　帰国児童生徒数

学校番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114
中学校区	崇化館	朝日丘	豊南	高橋	上郷	高岡	保見	猿投	猿投台	石野	松平	竜神	美里	逢妻
児童生徒数	20	27	20	9	14	7	5	6	8	0	6	19	9	6

学校番号	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
中学校区	若園	梅坪台	前林	益富	末野原	井郷	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	藤岡南	浄水
児童生徒数	11	9	5	5	27	9	2	0	0	0	0	0	6	29



7　帰国児童生徒に関するアンケート結果

（１）学習内容などで困難を感じている教科・内容

【小学校】

帰国後１年目	人	帰国後２年目	人	帰国後３年目	人
・国語（漢字、作文、書写	24	・国語（漢字、作文、書写	19	・国語（漢字、作文、書写	2
・社会	4	・社会	0	・社会	1
・算数（文章題)	9	・算数（文章題)	4	・算数（文章題)	0
・理科	5	・理科	2	・理科	0
・音楽	3	・音楽	0	・音楽	0
・図工	0	・図工	0	・図工	0
・家庭	2	・家庭	0	・家庭	0
・体育	3	・体育	0	・体育	0
・外国語活動、外国語	0	・外国語活動、外国語	0	・外国語活動、外国語	0
・総合的な学習、生活科	0	・総合的な学習、生活科	0	・総合的な学習、生活科	0
・道徳	0	・道徳	0	・道徳	0
・全教科	0	・全教科	0	・全教科	0

【中学校】

帰国後１年目	人	帰国後２年目	人	帰国後３年目	人
・国語(漢字、読解)	2	・国語(漢字、読解)	1	・国語(漢字、読解)	9
・社会(歴史、地理)	2	・社会(歴史、地理)	3	・社会(歴史、地理)	8
・数学	5	・数学	0	・数学	3
・理科	4	・理科	2	・理科	7
・英語	1	・英語	0	・英語	0
・音楽	2	・音楽	2	・音楽	5
・美術	1	・美術	1	・美術	4
・保健体育	1	・保健体育	1	・保健体育	5
・技術･家庭科（裁縫）	3	・技術･家庭科（裁縫）	1	・技術･家庭科（裁縫）	4
・総合的な学習	1	・総合的な学習	0	・総合的な学習	4
・道徳	1	・道徳	0	・道徳	4
・全教科	2	・全教科	0	・全教科	1

（２）学校への要望、意見(指導上配慮してほしいこと)

【小学校】	人数
学習が遅れているところを教えてほしい。	10
文章力や書き順を教えてほしい。	9
友人関係に配慮してほしい。	5
褒めて指導してほしい。	4
個別対応（一対一対応、日本語指導員配置等）をしてほしい。	4
習っていない教科や習っていない分野の学習について、配慮してほしい。	3
分かりやすい日本語を使ってほしい。	3
宿題を減らしてほしい。	1
日本の文化に慣れないので苦労している。	1
【中学校】	人数
学習が遅れているところを教えてほしい。	1
励ましてほしい。	1
細かいことを分かりやすく話してほしい。（ルールやマナー）	1

（３）生活適応上で困ったこと

【小学校】
友人関係
日本の学校生活に慣れること
給食に慣れること
伝えたい日本語が出るのに時間がかかる
文化の違いを受け入れること
徒歩通学が心配
日本での生活が適応していない
日本語の語彙力が乏しい
暑さに弱い
【中学校】
友人関係
日本の学校の細かいルールが理解できない
体力が落ちた
環境の変化によるストレス
学校、クラスになじめない

（４）習得した言語等を維持するための工夫

【小学校】
外国語の塾や教室に通っている（オンライン含）
外国語でのテレビや動画、映画、音楽、ラジオの視聴
外国語で書かれた本を読む
現地の友達と連絡をとる
家族で外国語を使って会話をする
インターネットやＳＮＳを活用している
家庭生活の中に、外国語を取り入れる
実用英語技能検定（英検）を受検する
【中学校】
外国語の塾や教室に通っている
実用英語技能検定（英検）などを受検する
外国語でテレビや動画、映画を視聴する
家族や友人と外国語を使っている
インターネットやＳＮＳを活用している
外国語で書かれた本を読む
現地の友達と連絡をとる
本人に任せている
いろいろなイベントへの参加

（５）海外滞在体験が本人に与えたと思われる事柄

【小学校】プラス的傾向
人種、性別、信仰などに対する偏見や抵抗がない。
話せる言語が増えた。
異文化に触れて、新しい経験ができた。
誰とでも仲良くなれる。
他国に興味をもつようになった。
視野が広がった。
少し英語が聞き取れるようになった。
多様性を理解できるようになった。
積極的になった。
外国人に抵抗がなくなった。
現地の友達ができ、帰国後も交流している。
新しい環境でも、物おじしなくなった。
個性を大事にする社会に触れられた。
日本語を知らない人とのコミュニケーションができる。
日本の良さを再認識できた。
自分の考えを伝えられるようになった。
自己肯定感が高くなった。
日本の環境の良さを感じた。
【小学校】マイナス的傾向
漢字、カタカナが苦手である。
日本語の使い方がおかしいときがある。
子どもだけの外出に制限があり、運動不足になった。
安全の問題や、スクールバス送迎で体力が低下した。
集団行動が苦手である。
日本の文化や礼儀を学べなかった。
日本の昔ながらの遊びを学べていない。
時間にルーズになった。
給食の味が嫌という。
日本語も英語も中途半端になってしまった。
日本語の語彙力が少ない。
主張が強くなり、悪目立ちしがちになった。
日本の勉強が遅れてしまった。（減った）
海外では、教科担任制のため、つまらないと言う。
日本での習い事が中断された。
バス登校であったため、日本の登下校を嫌がった。

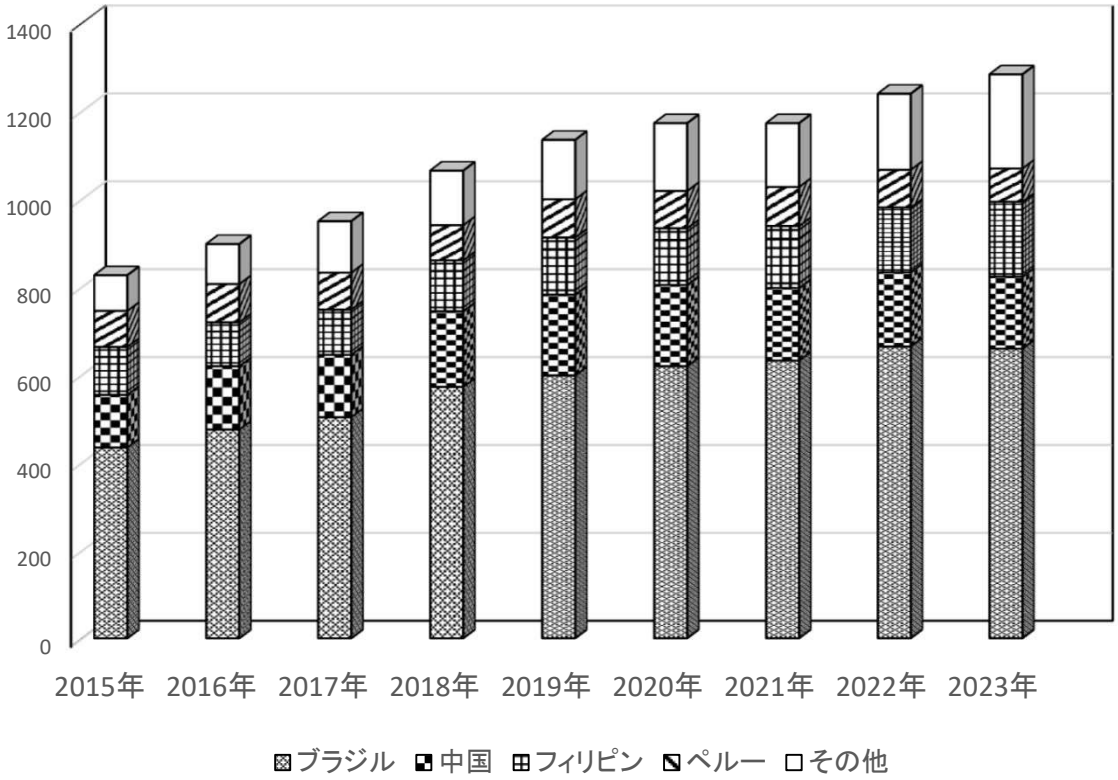
【中学校】プラス的傾向
話せる言語が増えた。
人種、性別、信仰などに対する偏見や抵抗がない。
多様性を理解できるようになった。
外国人と接することに抵抗がない。
異文化交流ができた。
日本と外国との違いを理解できた。
他国に興味が出た。
視野が広がった。
コミュニケーション能力が向上した。
積極的になった。
海外の友達ができた。
海外の文化や教育に触れられた。
日本を外から見られるようになった。
日本との違いを否定ではなく前向きに受け止められるようになった。
個人を尊重できるようになった。
自己肯定感が高くなった。
誰に対しても自分の考えを伝えることができる。
海外で生活することへの不安が軽減された。
外国人の気持ちがわかるようになった。
【中学校】マイナス的傾向
理科、社会が学べなかった。
漢字、カタカナが苦手である。
日本語にハンデがある。
日本のルールに抵抗をもつようになった。
安全事情が違い、子どもだけで行動する経験が少ない。
安全の問題があり、屋外活動が制限され体力が落ちた。
主張が強くなり、悪目立ちしてしまう。
海外と日本の多くのギャップにストレスを感じる。
日本の行事を知る機会が少なかった。
日本の勉強、スポーツ（鉄棒など）の遅れが生じた。
日本の英語の、しっかりとした文法に戸惑っている。
海外は冷暖房完備だったので、そうでない日本に慣れない。
語彙力が少ない。
日本語も英語も中途半端になってしまった。
時間にルーズになった。
日本人学校に同学年の同性が少なく、親友ができなかった。

Ⅲ　豊田市における外国人児童生徒の実態

1　学年別外国人児童生徒数

校種	小学校						小学合計	中学校			中学合計	総合計
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年		１年	２年	３年		
人数	151	147	141	172	150	135	**896**	131	130	126	**387**	**1283**

2　外国人児童生徒数の変遷　（各年５月１日現在）

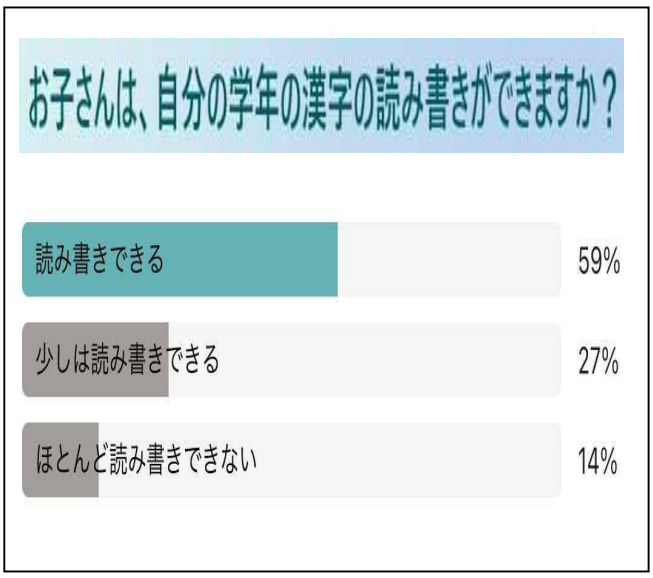


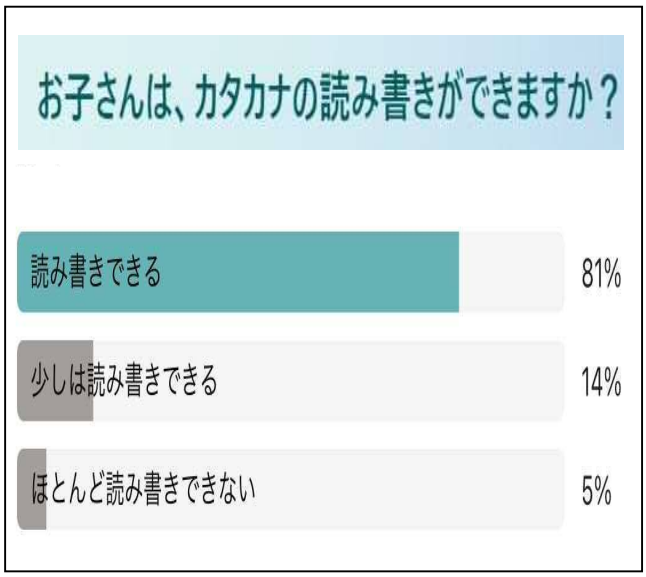
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
ブラジル	434	475	503	572	598	619	632	664	659
中国	120	144	142	172	184	185	165	169	164
フィリピン	109	100	103	116	130	129	141	147	170
ペルー	82	87	84	80	87	85	89	86	76
その他	81	91	117	124	135	154	145	173	214
合計	826	897	949	1064	1134	1172	1172	1239	1283

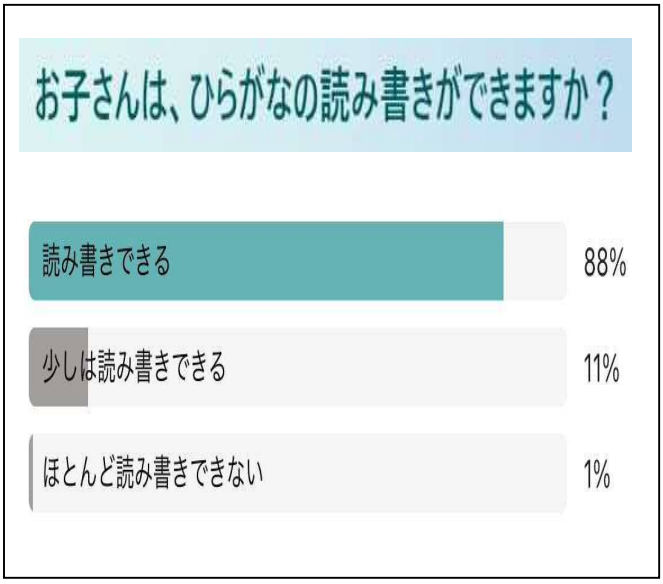
3　外国人生徒の中学校卒業後の進路

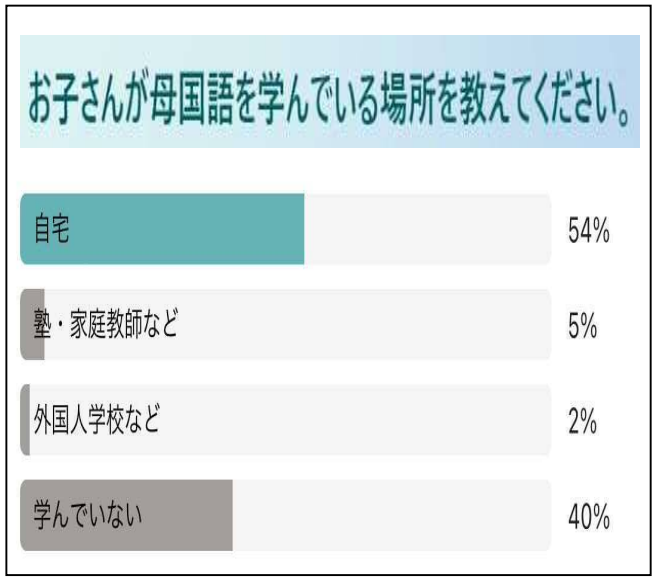
	全日制			定時制	通信制	高専	特支	専修学校	各種学校	職能開発	就職	家事手伝い	帰国	その他	合計
	国立	公立	私立												
人数	0	54	24	18	3	1	5	14	1	0	0	4	4	3	131

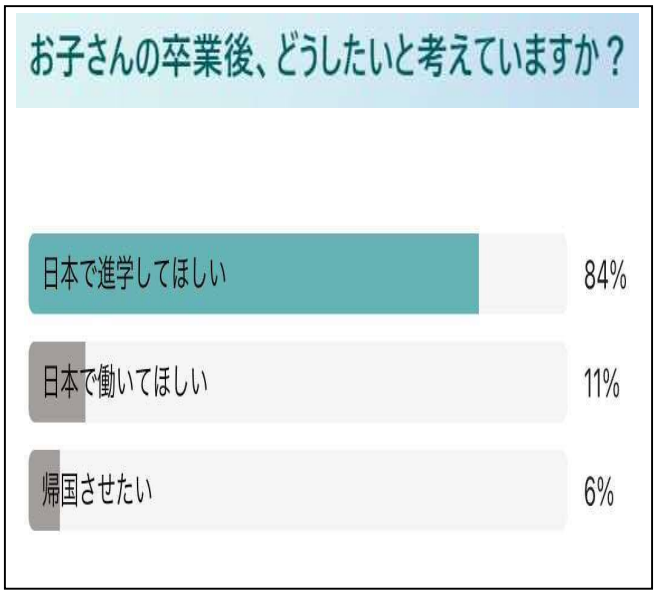
4　外国人児童生徒に関するアンケート結果











【小学校】　家に帰ってからの生活で困っていること
宿題ができない。(漢字等)
勉強の方法がわからない。
宿題などで分からない(難しい)言葉などがあると、一人で問題が解けない時がある。
宿題が60分間できない。
テレビを見ているため、寝るのが遅くなる。
物事を人任せにする。
【小学校】　学校への要望
通訳がいてほしい。
連絡帳に書かれている持ち物が分からないことがある。
算数、国語は詳しく、ゆっくりと教えてほしい。
日本語の勉強をもっと教えてほしい。
勉強に集中できるようにしてほしい。
先生に宿題を教えてほしい。
宿題をなしにしてほしい。
文化の違いで、周りと違うことをする時がある。学校でもっと日本の文化を学ばせてほしい。
学校生活に対して経験がなく、わからないことがたくさんあるので教えてほしい。
個別懇談会などの紙に名前を英語で書かないでほしい。
中学校の制服を貸してもらえるか知りたい。
【小学校】　日本の学校に入ってよかったこと
日本語を学ぶことができる。日本語が話せるようになった。日本語がわかるようになった。
漢字とひらがなの読み書きができるようになった。
いろいろな体験活動や運動（体育）がある。
日本の勉強や文化がわかった。
日本だと、レベルにあった学習ができる。
日本では、義務教育を受ける全ての子が、公平に教育を受ける機会を与えられるのがとても良いと思います。
母国と違うことを学ぶことができて楽しい。
学校で勉強したことを生活に生かすことができる。
友だちと遊び、本を読み、おいしい食事（給食）ができる。良い日本人の友だちができ、クラスメイトの全員が優しい。
通学団で安全な登下校ができる。
学校に行くのが楽しいみたいなので安心している。
自分で考えて行動する習慣がつけられる。
自立心と責任感が育ってきた。
マナー面でメリットを感じた。
時間の正確性が身に付く。
先生が親切で優しい。思いやりのある先生方、子どもにとって必要なことを意識してもらえている。
小学校に通い始めてから、子どもがいろいろな面で大きく成長した。

【中学校】　家に帰ってからの生活で困っていること
宿題や学校で習ったことの復習ができていない。
自分の物や学校に提出するプリントなどの自己管理ができていない。
宿題や学校の勉強をする上で、疑問や不便なことがたくさんある。
勉強が好きではないということ。
家庭で任せられた仕事をすることができない。
ゲームをしすぎる。
【中学校】　学校への要望
可能であれば、日本語の補強をお願いしたい。
字と日本語を学ぶ特別コースがあるとよい。
外国人の子どもたちへの日本語と漢字の教育をもっと重視してほしい。
個別に学習をみてもらう時間をもっと長くしてほしい。
勉強の大切さについて教えてほしい。
最後までやらせたり、励ましの言葉をかけて、やる気にさせてほしい。
成績を上げるためのサポートをしてほしい。
【中学校】　日本の学校に入ってよかったこと
日本語を書いたり読んだりすることができるようになった。
日本語と日本の文化を学ぶことができる。
日本語があんまりわからない時に友達が手伝ってくれた。
永住するつもりなので、文化や様々な学習方法を学べ、将来に役立つ。
部活、プール、給食があること。
運動ができて、体の健康を保てる。
部活動で、体を使って成長できる。
参加すべき活動がたくさんあり、質の高い教育から学ぶことがたくさんある。
頭を使う機会が増えて、人間としてとても成長している。
運動と勉強が両立できる。
新しいことを経験して学ぶことができる。
秩序、清潔さ、規律が素晴らしい。
教育環境がとても良い。
責任感がついた。
日本人の友達ができた。
友達と仲良くしていて人生楽しそう。
外国人を他の日本人と同じ扱い、同じ教育を受けることができるのはすごく良かった。
先生たちの忍耐強さと、クラスメートの友情にとても感謝している。

2　相談委員会活動報告

Ⅰ　帰国・出国児童生徒保護者懇談会

1　はじめに

2　体験談を聞こう

3　帰国・出国生徒対象の情報を聞こう

4　情報交換会

5　小学生交流会

6　まとめ

Ⅱ　相談窓口の開設

Ⅲ　学習資料の送付

1　活動内容

2　送付対象者数

3　学習資料送付の終了

Ⅰ　帰国・出国児童生徒保護者懇談会

1　はじめに

豊田市在住の帰国・出国児童生徒保護者が交流を深め、海外での体験を共有するとともに、進路や学校生活への適応等について情報交換をすることを目的に、8月5日（土）に豊田市国際交流協会（TIA）において懇談会を開催した。質問は事前に集約したものを講師へ送付し、講話や懇談の中で回答していただいた。学校生活や進路、外国語の保持等の相談が中心だった。新型コロナウイルス感染症への対応が緩和された本年度は、児童生徒・保護者の交流の場を従来通り充実させて実施した。

《滞在国別参加児童生徒・保護者数》

滞在国	児童生徒数	保護者数
アメリカ	8	10
中国	4	8
タイ	1	5
メキシコ	2	2
フランス	2	1
ベルギー	2	1
インド	1	1
インドネシア	1	1
ドイツ	1	1
その他	0	1
計	22	31

本懇談会は、平成27年度より帰国者だけでなく、出国予定者にも対象を広げ、帰国者と出国予定者の相互の情報交換や交流を大切にしている。今年度は児童生徒（未就学児含む）22名、保護者31名の合計53名の参加となった。

＜参加者の皆さん＞

＜自己紹介のようす＞

2　体験談を聞こう

（１）中学２年生徒の体験談

僕は小学４年生から中学１年生の夏までメキシコのグアナファト州のレオンという町に住んでいました。メキシコは１年を通して温暖で過ごしやすく、自然豊かな国です。僕の住んでいたレオンという町は、日本やヨーロッパの企業が多く進出し、比較的治安は安定していて、大型ショッピングセンターや総合病院もあり、生活するにはとて便利な場所でした。しかし、路上に物乞いの人がいたり、車上狙いなどの軽犯罪は日常的に起きたり、時にはマフィアが警察を狙った銃撃戦などがあったりするため、住宅や学校、またレストランなどは高い塀で囲われていて、ガードマンが24時間警備をしていました。

日本人学校に通うこともできましたが、そのためには治安の悪い場所を１時間以上車で走る必要があり、幼稚園児の妹もいたため、幼稚園から高校まで一緒になって

いる近くのインターナショナル校へ入学しました。学校では担任の先生以外に教科担当の先生がいて、2時間ずつ授業がありました。授業内容は、先生や学校が作成した動画を見た後でグループワークを行うことが多くありました。お昼休みはクラスメイトと一緒に売店に行き、食後はサッカーをして過ごしました。日本と大きく違うのが宿題です。金曜日に単元テストがあるので、平日の宿題は多かったですが、金曜と土日の宿題はありません。そのため、日本にいるときよりも家族との時間を多くもつことができ、旅行にもたくさん行きました。それに、自分の時間もたくさん取ることができていたので、とても充実した生活を送れていたと思います。

スペイン語のレッスンを10時間ほど受けてからメキシコに行きましたが、言葉が通じない場所で友達ができるか、授業についていけるのかとても不安でした。トイレに行きたいことをうまく伝えられるかさえも不安だったので、最初は紙に書いて持っていました。けれど、嬉しいことに登校初日から友達を作ることができました。クラスのみんなが外国人慣れしていて、明るくフレンドリーに接してくれたからだと思います。彼らは課題を手伝ってくれたり、日本について知っていることを話題に話しかけてくれたりと積極的にコミュニケーションを取ってくれました。こうしたこともあり、僕はすぐにメキシコが大好きになりました。

メキシコで暮らす中で大変だったことが二つあります。一つ目は、スペイン語と英語の習得です。メキシコに行く前に勉強した英語とスペイン語は少ししか役に立ちませんでした。最初の頃は学校に通えていたので、友達や先生がサポートしてくれました。また、自分でも教科書や携帯電話を使って、ある程度内容を伝えることができました。ですが、コロナ禍ではオンライン授業になったため、それが難しくなりました。３人グループで課題をまとめ、パワーポイントやカンバというデザイン作成アプリを使ってプレゼンテーションをする課題が出るのですが、スペイン語を習得する前はグループワークに貢献できず、ただ聞いているだけでした。それが申し訳なくて悔しい思いをしました。現地校の授業は、英語とスペイン語が半々で行われていて、全ての教科において、授業はもちろん宿題も難しく、教科書でわからない単語を一つ一つ調べたり、予習をしていきました。文法がわからなくても一語でも多く知っている言葉を増やす努力をしました。二つ目は、日本の勉強をどのように継続するかでした。メキシコに行ってから4か月経たずにコロナウイルスが流行りだしたこともあり、補習(授業)校には通っていませんでした。平日は宿題や調べ物で手一杯であったため、週末に通信教育のビデオ学習を継続的に行いました。日本から持って行ったドリルや参考書はとても役に立ちましたが、日本の学校ほど問題数をこなすことができなかったので、帰国してから少し大変でした。しかし、学習の習慣が身に付いていたので、早くにリカバリーできたのだと思います。学習を進める中で心がけていたことは、「うまく話せなくても感謝の気持ちを伝えること」「見よう見真似でもやってみること」「分かるまで質問して調べること」です。家庭教師から文法を習うと同時に、それを使う機会を増やすことで、身に付くスピードが各段に速くなるということを身をもって学びました。不安がたくさんあってもやってみる勇気をもつことが大切だと思います。

メキシコで現地の文化や習慣に触れ、日本との違いにたくさん気付くことができました。メキシコには、日本にはないオープンで陽気な雰囲気がありますが他国から侵略されたという過去があります。そのため自分たちのアイデンティティをとても大切にしています。僕が日本の生活文化で培った宿題を期限内に提出することや、様々な場面で色々な場所を清潔にすることは、メキシコでとても褒められました。相手の文化を尊重し、相手を思いやって行動することの大切さをメキシコでの生活で学びました。このことをこれからの生活に生かしていきたいと思います。

（２）保護者の体験談

保護者　高橋 千春　様

私たち家族は、2016 年 7 月から 2019 年 12 月までの 3 年 5 か月の間、アメリカ東海岸にあるノースカロライナ州チャペルという都市に住んでいました。ノースカロライナ州はニューヨークとフロリダの間に位置し、住んでいたチャペルという都市は大学が集まっている学園都市で海外からの留学生や研究者も多く、外国人の受け入れに慣れているとても住みやすい町でした。小学校を選ぶ際、外国人児童の受け入れ体制や日本人児童が何人ぐらい通っているかなどを調べ決めました。また、通う学校を決めてから様々なことを考慮し、住宅を探しました。アメリカでは州や都市によって、また隣り合う町であっても治安や人種、民族構成、比率、そして教育水準などが違うので、よく調べることをお勧めします。

長男は小学 1 年生から 4 年生、次男は幼稚園年少から小学 1 年生までの間、月曜日から金曜日はアメリカの現地校、土曜日の午前中は日本語補習(授業)校に通っていました。長男はアメリカ到着後すぐに現地校の入学手続きをしました。その際、英語のレベルチェックのための面接がありました。アメリカは 9 月より新学期が始まるので、タイミングよく新 1 年生として他の児童と一緒に入学できました。現地校では、日本のアニメに興味のある子や日本へ旅行に行った子がいて、よく話しかけてくれることがありました。学校で何か困ったことや、子ども同士のトラブルがあったときには、担任の先生に内容をメールで知らせたり、直接話をしたりしました。英語がうまく話せないために誤解を招いたり、小さなトラブルが起きたりすることがありました。ある日、長男が帰宅すると「ユアソミーと言われた。どういう意味」と聞いてきたため、子どもがよく使う言葉で、日本語で言うと意地悪な人、不親切な人だよと伝えると、「僕、意地悪なんてしていないのに、なんでこんなひどいこと言われるの」と大粒の涙を流して泣いていたことがありました。子どもたちには、「英語がすぐに話せるようにはならないけど、必ず話せるようになるからたくさん英語を聞こう。パパとママはいつも味方だし、何かあれば必ず助けるから困ったことがあればいつでも話してね」そして、「英語が分かるようになるまで、現地校に通うのが楽しくないかもしれないけど、きっと友達ができたら楽しくなるから、もうしばらく頑張ろう。でも、本当に学校に行くのが辛くなったら、学校に行かずに自宅で勉強することもできるから、無理しなくていいよ」ということを何度も伝えました。

現地校では、英語が話せない児童向けのESLクラスがあり、毎日 1 時間から週 1 回 1 時間のように、レベルに応じて通常授業にプラスして英語の授業を受けることができました。毎日全ての授業が英語で行われるため、長男は単語一つを理解するのも難しく、通常クラスの授業でわからない単語があるとその都度手を挙げて聞いていました。1 日100回以上手を挙げて教えてもらっていたこともあったそうです。現地校は週 2 回英語と算数の宿題が出たので、提出日に合わせて家庭教師に来てもらい勉強を見てもらいました。小学 1 年生は全クラス担任と副担任の二人体制であったため、副担任の先生がほぼ長男につきっきりのようでしたが、長男に対して嫌な顔せず根気よく教えてくれたおかげで少しずつ学校生活に慣れることができました。英語が理解できなくても計算問題は解けるので、計算が速いなど算数でよく褒めてもらい自信がついたようです。現地校での初めてのイベントはパジャマデーでした。名前の通り、パジャマを着て学校に登校する日です。長男が、人気アニメのキャラクターがたくさん描かれているお気に入りの日本のパジャマを着ていくと、多くの子が集まってきたようで、みんなに英語で話しかけられ、内容はわからなかったけれどもとても嬉しかったようです。小学生の男の子にトレーディングカードがすごく人気だったので、その

アニメの話をするうちにだんだんと仲良くなり、友達が増えていきました。
　次男の幼稚園についてですが、プリスクールという日本でいう幼稚園を探して入園させました。次男の様子を見ながら、アメリカの生活に少し慣れてきた 11 月頃から登園し始めました。週 4 日のクラスだったので、幼稚園がお休みの金曜日は、幼稚園で仲良くなったお友達と遊園地や公園にでかけて一緒に遊んでいました。
　日本語補習(授業)校についてですが、土曜日の午前中 4 時間の授業で国語と算数を勉強していました。週 1 回しか授業ができないため、どうしても漢字の書きとり、計算問題や日記など 1 週間分の宿題が多く、さらに予習・復習と自分で勉強する必要があり、子どもたちは大変でしたが、この勉強のおかげで帰国した時に困らずに授業についていくことができました。子どもたちにとってこの補習(授業)校は、日本語で友達と遊んだり、話し合えたりする大切な場所であり、親にとっても保護者同士で相談したり、情報交換したりできる貴重な場所でした。
　子どもたちの英語の習得は、最初の全く分からない状態から半年でほんの少し分かるようになり、1 年か 1 年半経つと学校での会話がなんとなく分かるようになり、2 年経つと学校での会話に困ることがほとんどなくなりました。当初、2 年の滞在予定だったため、日本語保持よりも英語の習得を中心に考えていましたが、滞在が 1 年延長になったことで、日本語保持と帰国後の小学校での授業についても考えるようになりました。2 年経った頃から自宅でも子ども同士の会話が英語になることが増えてきました。自宅では基本日本語で会話しているので、日本語保持ができていると思っていましたが、次男の英語の発音がネイティブのようになってくると、気が付くと日本語の発音が英語風になっていました。帰国後の日本語教育や学校教育について、海外滞在中にどこまで勉強させるのか、各ご家庭でそれぞれ考え方があるので、どれが正解かわかりませんが、我が家は子どもたちがまだ小学生だったので、アメリカ生活を楽しく過ごすことを一番に考えました。自宅ではアメリカのテレビアニメなどを見て、ラジオで音楽を聞き、図書館で英語の本や映画をたくさん借りました。自宅や日本人のお友達とは日本語で話をして、日本から本やテレビアニメの録画などを送ってもらったりもしました。日本の勉強は、補習(授業)校と通信教育の教材を使っていました。時々、日本から持っていった鍵盤ハーモニカやリコーダーを練習するくらいでした。他のご家庭では、毎年夏に一時帰国をして日本の学校に数週間通ったり、帰国後の受検対策として現地の英検を受検したりするお子さんもいました。
　帰国してからのことについてですが、授業で困ったことは、日本語補習(授業)校と小学校の教科書が違うことでした。1 月から日本の小学校に登校したので、補習(授業)校で習っていない漢字がすでに習った漢字としてテストに出たりして、子どもはとてもストレスを感じていました。そのため、漢字ドリルや教科書を見比べて自宅で補いました。学校生活もアメリカとの違いに戸惑ったことが何度もあったようです。次男は 1 年生ということもあり、クラスメイトがすぐに受け入れてくれましたが、長男は 4 年生という難しい年齢で、団結力の強いクラスだったせいか、なかなか受け入れてもらえず、かなり苦労しました。長男にとってはアメリカ生活よりもこのときが最も辛い時期だったようです。新学年になってからは新しい友達もでき、今では学校生活を楽しんでいます。帰国後の英語保持については、小学 4 年生で帰国した長男は維持できていますが、小学 1 年で帰国した次男は、家での会話は英語が多かったのに半年後にはすっかり日本語だけの会話になりました。そのため、外国語保持教室に通ったり、ここ TIA にあります帰国子女の小学生向けのボランティアグループに参加したりして、英語を使っての英語保持の学習を現在行っています。
　最後に最初 1 年ぐらいは親子ともに新しい生活に慣れるのに大変でしたが、家族みんなで、そして、周りの方たちにも助けてもらいながら楽しい滞在生活を送ることができました。子どもたちは「アメリカでの生活は、楽しい思い出しかない」と言っています。これが何より嬉しい言葉です。

3　帰国・出国生徒対象の情報を聞こう

（１）「帰国後、公立高校に入るには」 愛知県立豊田西高等学校 教頭　嶋田 好克　様

1　帰国後、公立高校に入るには

・２月上旬にある推薦入試または特色入試を受検。
・２月下旬にある一般入試または海外帰国生徒選抜を受検。
・随時受検できる編入学試験を受検。

2　海外帰国生徒選抜

（１）実施時期は、２月下旬。
（２）試験内容は、学力検査３科目（国・数・英）と面接。
※同日実施の一般選抜にも第１志望として出願するので実際には５科目受検。
（３）出願資格は、「継続して２年以上海外在住かつ帰国後２年以内」であること。
（４）実施している公立高校は、三河地区では豊田西、岡崎西、豊橋東の３校。
※日進市や東郷町は豊田西も受検可能。
※居住地にかかわらず名東（国際英語）、千種（国際教養）、刈谷北（国際探究）は受検可能。
（５）出願手続きは、①県教育委員会に相談する（出願承認書の交付が必要で、現地校の場合は出願資格の事前審査あり）、②必要ならば志願先の高等学校へ相談する、③必要書類を揃えて出願する。
（６）海外日本人学校は、推薦選抜に出願が可能（日本人学校長から志願先の高等学校長へ事前連絡が必要）。海外現地校は推薦選抜への出願は不可（特色選抜には出願可能）。
※海外現地校であっても、帰国し日本の中学校に在籍していれば制限はない。
（７）令和５年度の入試から、
・一般選抜の学力検査は１回（マーク式）のみ。
・一般選抜の面接の実施は学校により判断する。
・推薦選抜と一般選抜は別日に実施。
・特色選抜が始まった。
※令和６年度入試より Web 出願になる。

3　海外在住生徒の編入学

（１）編入学は、随時実施。ただし、編入学を認める時期は 4/1～翌年 1/8。
（２）試験内容は、編入学考査（豊田西高は国・数・英）と面接。
（３）出願資格は、継続して１年以上海外在住かつ帰国後１年以内。
（４）どの高校でも出願は可能。ただし、高校側に受け入れ可能な人数制限あり。
（５）出願手続きは、県教育委員会及び志願先の高校に相談し、必要書類を揃える。
（６）編入学考査は、「その学校の授業についていけるか」を見る。
※科目や出題範囲は各学校が定める。
（７）編入学考査は、１度につき１校のみ受検可能。
※不合格の場合、別の学校に出願。
（８）アドバイスは、日本の中学校の学習内容をしっかりと身に付けておくこと。そのために海外でも受けられる通信添削や模擬試験等を活用すること。

4　本校の海外帰国生徒の現状

・学習、部活動、行事等にバランスよく取り組んでいる。
・頑張って学力を付け、多くの先輩が希望の進路に進んでいる。

5　最後に

・海外帰国生徒選抜の枠は 10%で、実際のところ定員に達することはないが、だからといって全員必ず受かるわけではない。相応の学力が必要となる。
・見通しをもって、早めに学校、県教育委員会へ相談するとよい。

（２）「海外で駐在する方へ 出国前～在留中～帰国後の留意点」

トヨタツーリストインターナショナル海外渡航部

海外子女教育相談カウンセラー　山崎 秀哲　様

1　日本人学校・補習授業校の就学状況（2021 年現在）

・日本人学校…約 15,000 人が通っている。
・補習授業校…約 24,000 人が通っている。
・北米地区が一番多く、次いでアジア、ヨーロッパ、大洋州、中南米、中東、アフリカの順。
・アジアでは約 9 割が日本人学校に通っている。
・北米ではほぼ現地校か補習授業校に通っている。

2　海外子女教育の特徴

（１）就学形態の推移
・日本人学校・補習授業校に通っている人数は横ばい。
・英語圏の現地校・インター校に就学する児童生徒は増えている。

（２）就学年齢・就学期間
・帯同される子どもの低年齢化が非常に進んでいる。
・7 年を越えるような長期化の傾向がある。

（３）多様化
・特別支援学級を設ける学校が増えている（11 校：58 人）。
・日本語の補充が必要な児童生徒が増加しており、日本人学校等で日本語学級を設ける学校も増えている。

3　出国時の留意点

（１）現地の学校選び+アメリカ赴任の例
・日本人学校（94 校）…国内と同等な在外教育施設（有償）
　※7 割ほどが文科省からの派遣教員
・私立在外教育施設（7 校・5 か国）
・現地の学校（公立・私立）
・インターナショナル校（米・英・仏系等）
　※日本人学校以外に通う場合、日本の勉強との両立が課題
・アメリカ赴任の例として、
　①学校を決めてから物件（家）を見つける
　②ＥＳＬやチューター制度で英語のサポート
　③コロナ禍ではオンライン授業を実施

（２）外国語の習得と帰国後の期待
・２～４歳　残らない　　・４～６歳　ほとんど忘れる
・６～８歳　多少は残る
・９～１３歳　読み書き可、英検準１級を取得する人もいる
・１４歳～　習得までに大変苦労するが習得した後は帰国生受検に生かす

（３）赴任中のスケジュール
・通信教育やインターネット模試（愛知県全県模試等）などで帰国後の受検に備える。
・音読や漢字ドリル、計算ドリルなどで学力の維持は必要。
・高校受検に向けて、一時帰国をして高校訪問（説明会）をする。
・海外帰国生徒選抜や編入情報について、愛知県教育委員会高等学校教育課ＨＰや愛知県私学協会ＨＰで確認する。

4　在留中の留意点

（１）日本人学校と現地校・インター校の学習
・日本人学校では、日本と同じ教育が行われる。
　月～金＝学校の学習、宿題　土＝習い事　日＝休日

・現地校･インター校では､補習授業校に通ったり､通信教育を受けたりするなど日本の学習の補填が必要になってくる。
月～金＝学校の学習、宿題、通信教育
土＝補習授業校の学習（国語・算数中心）
日＝午前中を使って社会・理科の学習を進める。
※教科書の分量で言うと４ページくらいは進める必要がある。

（２）現地での相談事例とアドバイス
・社交性、負けん気、決められた事をやり抜く強い意志があれば適応できる。
・海外では日本より頑張って勉強する必要がある。
・一時帰国の際に、入試に備えて体験入学や夏季講習、高校訪問を行う。
・海外帰国生徒選抜に向けて、全県模試を受けたり、志望理由書を作成したりする。

（３）幼児教育の留意点
・幼児期は絵本の読み聞かせや動画配信等で日本語に触れる環境づくりを。

５　帰国時の留意点

（１）本帰国後の子どものケア
・子どものことを理解してもらえるように、現地での生活の様子や学習内容、日本の学校生活習慣に不慣れなことを前提に支援や配慮してほしいことなどを A4 用紙 1 枚程度にまとめ、学校に提出するとよい。

（２）高校受検にかかわる帰国のタイミングと高校入学までの選択肢（進路）
・中学 3 年を卒業あるいは 9 年生を修了していれば受検の資格がある。
・日本の高校を受検するには、①現地校に在籍したまま受検、②地元の中学校に編入学して受検、③高校 1 年になった段階で編入学の 3 パターン。
※中学 3 年の 4 月から日本の学校に通えるのが一番よい。

（３）帰国後の英語力（現地語）の保持
・海外子女教育振興財団や塾等が行っている英会話教室などの活用を。
・実用英語技能検定（英検）の準一級を目指して挑戦するとよい。

４　情報交換会

トヨタツーリストの山崎秀哲様、豊田西高等学校教頭の嶋田好克先生、教務主任の今田祐之先生、豊田市国際交流協会（ＴＩＡ）阪峯秀明専務理事、在外教育施設（日本人学校等）で勤務経験のある鈴木文与志先生と吉田健一先生に相談役として参加していただいた。また、体験談をお話しいただいた生徒・保護者も加わり、参加者はそれぞれブースに分かれて情報交換を行った。

＜豊田西高等学校の先生に質問＞

どのブースも出国予定の参加者が積極的に質問する場面が見られた。先生方には現地の学校や学習方法、帰国後の学校生活などについての質問、体験談発表者には現地での生活や学校選びについての質問などが寄せられた。円座になって懇談するブースもあり、他の参加者からの質問も参考になる様子であった。

また現地の医療サービスの状況や、渡航前のワクチン接種についてなど、コロナ禍の影響による質問や不安の声もあり、現地の状況をよく調べたり関係各所へ問合せたりして各地の情報を集めるとよいといったアドバイスがあった。

＜体験談発表者から話を聞く＞

帰国間もない参加者が、体験談をお話しいただいた保護者の方へ熱心に質問したり、同じ国へ出国予定の参加者同士や、帰国者と出国予定者の方が話したりする姿も見られ、終了間際まで途切れることなく活発な意見交換が行われた。

会の始めは緊張した様子の参加者も多かったが、情報交換や相談を通して打ち解けた様子も見られ、大変有意義な会となった。

5　小学生交流会

（１）工作・ゲーム体験教室（折り紙・魚釣り・福笑い）

小学生の部では、子どもたち同士の交流を深めるために、工作とゲームを行った。工作は、日本の遊びに親しんでもらおうと、折り紙・魚釣り・福笑いの三つを行った。

＜折り紙で何を作ろうかな＞

折り紙コーナーでは、図案を参考に、子どもたちが好きなものを折っていった。「鳥が上手にできたから、色違いでたくさん折ろう」「ちょっと難しそうだけど、オットセイがいいな」など、思い思いに作りたいものを選んで取り組んでいた。折り方が分からなくなると、高校生ボランティアと一緒に折り「できた！できた！」と、ともに喜ぶ姿が見られた。

＜タコが上手に作れたよ＞

魚釣りコーナーでは、魚釣りの準備として、まず色画用紙や紙コップを使い、海の生きものを作った。ハリセンボンやウミヘビ、ワニなど、豊かな発想で海の生きものを作っていた。作った海の生きものの裏に点数を書き、釣ったときに得点が入るようにしていた。一つ完成すると、「もう一つ作りたい」といくつも海の生きものを作り、楽しんでいる様子だった。

＜全部釣るぞ！＞

海の生きものを作り終えると、海に見立てたブルーシートの上に放し、釣りを楽しんだ。釣りの楽しさを実感すると、もっと魚を増やしたいと、海の生きもの作りに戻って、たくさん作る様子が見られた。「この魚は小さいけど 200 点」「じゃあこれは大きいけど－10 点」と、魚釣りを楽しむためのアイデアを子どもたち同士でアドバイスをする姿も見られた。初対面でも、積極的に関わっ

て、楽しく遊んでいる様子が見られ、帰国児童は海外での経験が生きていると感じた。どの子も遊びの中で交流を深め、和気あいあいと楽しく過ごすことができた。

福笑いでは、これまでに福笑いを経験したことがなく、「これはなあに？」と興味をもつ様子が見られた。福笑いコーナーでは、おたふくの目・鼻・口・眉毛を作り、折り紙や魚釣りを通して仲良くなった子と一緒に、目をつぶって置く役と、「もうちょっと上」などと案内する役に分かれて楽しんでいた。参加した子どもたちは、折り紙や魚釣りを通して打ち解けている様子で、案内役がわざと変な顔になるように案内したり、子どもたち同士で大笑いしたりしながら、繰り返し遊んでいた。

子どもたちは三つの遊びを楽しみ、時間が足りない様子であった。最後に、自分の作った作品を持ち帰り、満足そうにしていた。

＜もっと右だよ＞

＜福笑いで大笑い＞

（２）感想・意見（参加者アンケート結果より）

【帰国した児童】

・折り紙をいっぱい作りました。外国で楽しかったことは、おいしい食べ物がいっぱいあったので、おなかいっぱい食べられました。外国で困ったことは、スペイン語がしゃべれなくて、不安でした。日本に帰ってきて楽しかったことはプールです。（メキシコ・３年生）

・よかったです。外国で楽しかったことは、友達と遊んだこと。日本に帰ってきて楽しかったことは、学校が楽しい。（ドイツ・１年生）

【出国を予定している児童】

・とても楽しかったし、難しいものを折って疲れました。でもとても嬉しかったし、楽しかったです。外国に行って楽しみなことは、お家にプールがあることです。心配なことは、学校が現地校なので、友達ができるか心配。日本に帰って来るときに心配なことは、友達が覚えていてくれるか。（ロサンゼルス・２年生）

・楽しかった。外国に行って楽しみなことは、学校で友達ができるか楽しみ。心配なことは、授業についていけるか心配。日本に帰って来るときに楽しみなことは、日本の友達と会えるのが楽しみ。心配なことは、日本の友達に忘れられていないか心配。（ベルギー・４年生）

・楽しかった。たくさん友達ができて面白かった。外国に行って楽しみなことは、他の国の人と交流すること。心配なことは、日本とのご飯の違い。日本に帰ってくるときに楽しみなことは、日本食を食べること。（中国・５年生）

6　まとめ

（１）感想・意見（参加者アンケート結果より）

・中学生の体験発表から、子どもの気持ちや苦労を知ることができよかったです。滞在国は違いますが、出国後の子どものケアに役立てたいと思いました。

・補習学習の重要性など改めて感じ、準備しようと思いました。生活面（治安や日常生活など）のお話も聞けて、有意義な時間をありがとうございました。

・豊田西高等学校の進路説明が非常に助かりました。高校受検をするときの住民票のお話は一番知りたかったことでした。

・日本人学校の先生のお話の中で、校内の雰囲気や受け入れ態勢を詳しく教えていただき助かりました。

・子どもの進学、学習について細かく各々の状況で異なる場合についても相談させていただけてとても助かりました。

・全てのお話がとても参考になりました。子ども目線、母親目線、トヨタツーリスト、西高の入学イメージなど、幅広くお話を聞けてよかったです。

（２）成果と課題

・令和３年度からオンラインでの申込を行っている。本年度も「あいち電子申請・届出システム」を利用した。これにより、各学校での集約作業が不要になり、参加者が直接手軽に申し込めるようになっている。

・昨年度までは、各校教務主任に帰国・出国家庭に個別配付を依頼していたが、出国予定の家庭の把握が難しいため、本年度は全家庭配付に切り替えた。これにより、各校では、学校メール送信をするのみとなり、業務が軽減できた。また、保護者の手元に確実に情報が届き、参加者も増加した。

・昨年度まで新型コロナウイルス感染防止対策として実施方法や時間に制限を設けて実施していたが、本年度はコロナ禍前の方法と時間で実施した。懇談や情報交換の時間を十分にとることができ、参加者の満足度も向上した。

・帰国・出国ともに滞在国がアメリカ合衆国や中国である家庭が多いため、それ以外の国、言語圏の児童生徒・保護者のニーズも満たせるように計画することが大切である。

Ⅱ　相談窓口の開設

出国や帰国に伴う生活の変化等についての不安や悩みを抱える児童生徒、保護者を対象とした相談窓口を、豊田市教育委員会学校教育課と豊田市国際交流協会（TIA)、外国人児童生徒等サポートセンターの３か所で開設している。

本年度も、以下のチラシを保護者に配付し周知することで、保護者がより相談しやすくなるようにした。

帰国・出国児童生徒のための相談窓口

お困りのことを相談してください

豊田市教育国際化推進連絡協議会

豊田市教育国際化推進連絡協議会では、帰国・出国される児童生徒・保護者の方への相談窓口を３か所にて開設しています。これは、帰国・出国児童生徒の皆さんの学校生活を楽しく充実したものにするための相談窓口です。どうぞお気軽に御相談ください。

相談窓口および受付時間

【相談窓口１】
○ 豊田市教育委員会学校教育課（事務局）
○ 電話（０５６５）３４－６６６２
○ メールアドレス　gakkou_k@city.toyota.aichi.jp
＜受付時間＞
月曜日～金曜日　午前８時３０分～午後５時１５分

【相談窓口２】
○ 公益財団法人豊田市国際交流協会（ＴＩＡ）
○ とよたグローバルスクエア（豊田産業文化センター３階）
○ 電話（０５６５）３３－５９３１
○ メールアドレス　tia@hm.aitai.ne.jp
＜受付時間＞
火曜日～金曜日　午前１０時～正午　午後１時～午後４時

【相談窓口３】
○ 外国人児童生徒等サポートセンター
○ 豊田市立保見中学校内
○ 電話（０９０）６３５５－２５６４
＜受付時間＞
月曜日～金曜日　午前８時３０分～午後４時３０分

Ⅲ　学習資料の送付

1　活動内容

（１）海外へ出国する児童生徒の保護者要望の集約（随時　事務局）

・出国前に、送付を希望する保護者が提出する「学習資料送付希望調査票」をもとに、送付名簿を作成

（２）前期分送付準備（５～６月　事務局）

・海外出国児童生徒名簿の修正・追加

・送付物の準備（教材の発注）

（３）前期分の発送作業（６月 23 日　相談委員会）

（４）後期分送付準備（９月～10 月　事務局）

・問い合わせへの対応及び出国児童生徒名簿の修正・追加

・送付物の準備（教材の発注）

（５）後期分の発送作業（10 月 31 日　相談委員会）

【前期送付物】
・算数の友（上巻）
・ことばのきまり
・社会科副読本
　（豊田・とよた）

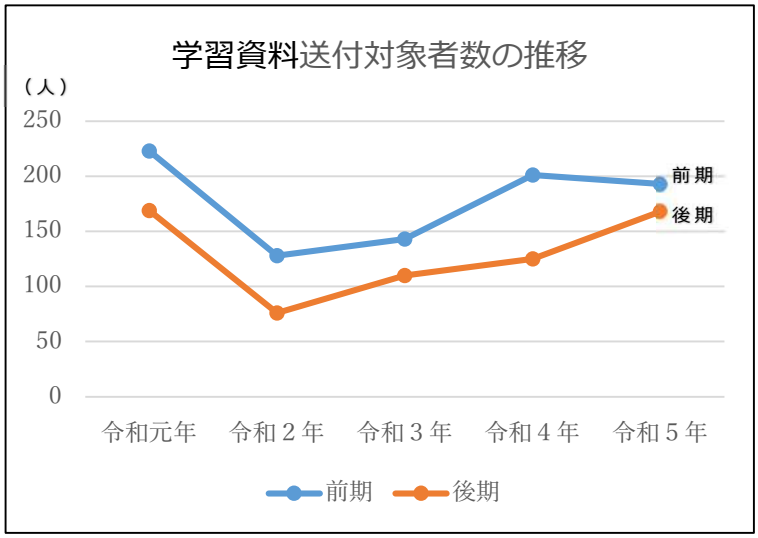
【後期送付物】
・算数の友（下巻）

2　送付対象者数

	学年	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３	合計
令和５年度	前期	13	18	29	25	34	27	18	18	11	193
	後期	18	23	32	29	36	30				168

・新型コロナウイルス感染症の影響で抑えられていた出国の動きが戻りつつある。令和４年と比較して、前期は５人減ったものの、後期は、43 人増加した。

・令和元年からの推移を見ると、令和５年は、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった元年と同じくらいまで、対象者数が戻っている。



3　学習資料送付の終了

海外でも様々な教材が入手できるようになったことや、デジタルドリルやデジタル教科書等の活用が進んでいること等を受け、学習資料の提供を終了することとした。

令和５年度豊田市教育国際化推進連絡協議会理事会にて、学習資料送付の終了が承認された。

3　指導研究委員会活動報告

指導研究委員会のあゆみ

1　はじめに

2　算数ドリルの作成

3　社会科ドリルの作成

4　漢字ワークの作成

5　日本語指導カリキュラム等の作成

＊　POTETO 掲載資料の紹介

指導研究委員会のあゆみ

1　はじめに

指導研究委員会では、豊田市教育国際化推進連絡協議会の会則、第２章・第４条にある「(２)帰国児童生徒･外国人児童生徒等の実態に応じた受入指導」「(７)国際化推進、国際理解教育にかかわる教育課程・指導法の研究」が示すように、時代に即した外国人児童生徒等教育の推進を図るうえで、学校現場に生かされる教材開発や指導法の研究推進を行ってきた。

来年度から委員会の統合を行うにあたり、指導研究委員会としての活動は本年度限りとなる。そこで、これまで本委員会が担い、作成等を行ってきた教材や指導法について、あらためてまとめておくこととする。

2　算数ドリルの作成（平成２５年度～平成２７年度、令和２年度）

算数科は、内容の系統性が明確な教科のため、新しい内容を学習する際に、それまで学習してきたことをもとにして、積み重ね発展させる形で学習を進めていく。そこで、「系統進度表」を作成し、小学校６年間で身に付けるべき基礎的・基本的な内容が一目で分かるように整理するとともに、算数科の学習活動をとおして、算数科特有の語彙や表現などの日本語の力を伸ばすように工夫したものが本ドリルの特徴である。

	算数、系統進度表　（　　）番　氏名(　　)						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 数と計算	数	100まで	1万まで	1億まで	1億以上		
	四則計算＋－	たしひき算	2桁3桁±	4けた±			
	かけ算、わり算	なんばんめ	九九	2,3桁×1桁			
				2,3桁×2			
				わり算	3桁÷1桁	倍/約数	
				×÷10	3桁÷2桁	公倍/公約数	
					概数四捨五入	奇数偶数	
	小数			小数±×÷	小数±×÷	小数×÷	小数まとめ
	分数		簡単な分数	分数＋－	分数＋－	分数±×÷	分数×分数
						通分,約分	分数÷分数
C 測定/変化と関係	C 測定 変化と関係	○時○分 大きさはべ	cm L dL 長さ,かさ	km g kg 長さ,重さ	割合		比と利用
			午前/午後 時刻/時間	秒、時間 の足し算		比例	比例反比例
						速さ	
						単位量あたり	
						割合, %	
B 図形	B 図形	いろいろな形づくり	多角形,箱作り	二角形,角	角度,分度器	合同な図形	線・点対称
				円, 球	垂直,平行, 平行四辺形	多角形	拡大,縮小
					直方立方体 面積	角柱,円柱	円の面積 体積,容積
D データ	D データの活用	かずしらべ	表やグラフ	△□の式	折れ線	円グラフ	場合の数
						平均	文字式xy
	文章類	＋－	＋－	＋－×÷	＋－×÷	＋－×÷	＋－×÷
	各項目に記入する→ ◎できる、 ○8割程度、 △5割程度、 ×定着していない						

1年★　2年★★　3年★★★　4年★★★★　5年★★★★★　6年★★★★★★

A1 大きな数
かぞえかた ★ …… 5
指導者に1「大きな数」…… 6
大きな数 ★ …… 7
億と兆、読み方書き方 ★★★★…… 8
大きな数れんしゅう ★★★★…… 9
なんばんめ★ …… 10

A2 たし算
5までのたし算 ★…… 11
10までのたし算1,2 ★…… 12
3つのかずのたしざん ★…… 14
くりあがりのたし算1,2,3 ★…… 15
2けたのたし算1,2 ★★…… 18

A3 ひき算
10までのひき算 ★…… 20
10−? ★…… 21
くりさがりのあるひき算1,2,3★…… 22
2けたのひき算1,2 ★★…… 25
指導者に2「くりさがりひき算」 27

A4 かけ算
九九 1,2,3 ★★…… 28
かけ算れんしゅう ★★…… 31
絵になる白ます計算★★…… 32
2けた×1けた 1,2 ★★★…… 33
3けた×1けた ★★★…… 35
2けた×2けた ★★★…… 36
3けた×2けた ★★★…… 37

A5 わり算
わり算ってなあに★★★…… 38
かけ算ふくしゅう ★★★…… 39
かけ算中ぬき ★★★…… 40
わり算れんしゅう★★★…… 41
あまりのある÷2,÷3,÷4,÷5★★★ 42
あまりのあるわり算れんしゅう★★★46
わり算の筆算 1★★★…… 47
わり算の筆算 2,3,4,5,6,7★★★★…… 48
指導者に3「世界の算用記号」…… 54

C1 とけい
時計 1,2 ★…… 55
時計あそび ★…… 57
午前と午後ってなあに★…… 58
午前と午後 ★…… 59
○時間と○時★…… 60

A6 小数
小数ってなあに★★★★…… 61
小数×10÷10 ★★★★★…… 62
小数のたし算ひき算 1★★★…… 63
小数のたし算ひき算 2★★★★…… 64
小数のたし算 (筆算) 練習★★★★…… 65
小数のひき算(筆算)練習★★★★…… 66
0のあるかけ算わり算 ★★★…… 67
小数のかけ算 1,2 ★★★★…… 69
小数のかけ算 3,4 ★★★★★…… 71
小数のわり算 1 ★★★★…… 73
小数のわり算 2,3 ★★★★★…… 74

A7 分数
分数ってなあに1,2,3★★…… 76
分数の大きさくらべ★★★…… 79
分数とわり算 ★★★★★…… 80
仮分数→整数 ★★★★…… 81
仮分数→帯分数 ★★★★…… 82
帯分数→仮分数 ★★★★…… 83
分数の約分 ★★★★★…… 84
分数の通分 ★★★★★…… 85
等しい分数 ★★★★★…… 86
分数→小数 ★★★★★…… 87
分数のたし算ひき算 1 ★★★…… 88
分数のたし算ひき算 2 ★★★★★ 89
分数のたし算くりあがり★★★★★ 90
分数のひき算くりさがり★★★★★ 91
異分母分数のたし算 ★★★★★ 92
異分母分数のひき算 ★★★★★ 93
分数のかけ算 1,2 ★★★★★★…… 94
分数のわり算 1,2 ★★★★★★…… 96

メートル法
長さの小数 1,2 mとkm★★★★★…… 98
重さの小数 gとkg★★★★★…… 100
面積の単位 m,㎡ a,ha ★★★★…… 101
体積の単位 ㎥,L ★★★★…… 102

【系統ドリル１（改訂版）（令和２年度作成）】

←【系統ドリル１（改訂版）の系統進度表】

A 大きな数
大きな数1,2 …… 5
指導者に1「大きな数」…… 7
大きな数の書き方1,2 …… 8
億と兆、読み方書き方 …… 10
大きな数れんしゅう …… 11

B-1 たし算
5までのたし算 …… 12
10までのたし算1,2 …… 13
3つのかずのたしざん …… 15
くりあがりのたし算1,2,3 …… 16
2けたのたし算1,2 …… 19

B-2 ひき算
10までのひき算 …… 21
10−? …… 22
くりさがりのあるひき算1,2,3 …… 23
2けたのたし算1,2 …… 26
指導者に2「くりさがりひき算」 28

C-1 かけ算
九九 1,2,3 …… 29
かけ算れんしゅう …… 32
2けた×1けた 1,2 …… 33
3けた×1けた …… 35
2けた×2けた …… 36
3けた×2けた …… 37

C-2 わり算
わり算ってなあに …… 38
かけ算ふくしゅう …… 39
かけ算中ぬき …… 40
わり算れんしゅう …… 41
あまりのある÷2,÷3,÷4,÷5 …… 42
あまりのあるわり算れんしゅう …… 46
わり算の筆算 1,2,3,4,5,6,7 …… 47
指導者に3「世界の算用記号」 54

F とけい
時計 1,2 …… 55
時計あそび …… 57
午前と午後ってなあに …… 58
午前と午後 …… 59
○時間と○時 …… 60

D 小数
小数ってなあに …… 61
小数×10 ÷10 …… 62
小数のたし算ひき算 1,2 …… 63
小数のたし算 (筆算) れんしゅう …… 65
小数のひき算(筆算)れんしゅう …… 66
0のあるかけ算わり算 …… 67
小数のかけ算 1,2,3,4 …… 69
小数のわり算 1,2,3 …… 73

E 分数
分数ってなあに1,2,3 …… 76
分数の大きさくらべ …… 79
分数とわり算 …… 80
仮分数→整数 …… 81
仮分数→帯分数 …… 82
帯分数→仮分数 …… 83
分数の約分 …… 84
分数の通分 …… 85
等しい分数 …… 86
分数→小数 …… 87
分数のたし算ひき算 1,2 …… 88
分数のたし算、くりあがり …… 90
分数のひき算、くりさがり …… 91
異分母分数のたし算 …… 92
異分母分数のひき算 …… 93
分数のかけ算 1,2 …… 94
分数のわり算 1,2 …… 96

F メートル法
長さの小数 1,2 mとkm …… 98
重さの小数 1,2 gとkg …… 100
体積の小数 1 L …… 102
面積の小数 mと㎡ …… 103
体積の小数 2 ㎥とL …… 104

【計算系統ドリル（平成２５年度作成）】

数量関係 I （＊の数は、載っている教科書の学年）
I-1 表・グラフ、数量関係
表とグラフ(1)(2) (2年＊＊) …… 1,2
表とグラフ、合計(3年＊＊＊) …… 3
なんばんめ(1年＊) …… 4
ぼうグラフ(1)(2)(3年＊＊＊) …… 5,6
折れ線グラフ(1)(2)(4年＊＊＊＊) …… 7,8
調べ方と整理のしかた(1)(2)(4年＊＊＊＊) …… 9,10

I-2 文字を使った式
□を使った式(式をたてる) (6年＊＊＊＊＊＊) …… 11
□を使った式(表にかく) (6年＊＊＊＊＊＊) …… 12

I-3 比例と反比例
ともなって変わる2つの量 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 13
比例 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 14
比例のグラフ (6年＊＊＊＊＊＊) …… 15
反比例 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 16
反比例のグラフ (6年＊＊＊＊＊＊) …… 17
比と比の値 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 18
等しい比 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 19
比を簡単にする (6年＊＊＊＊＊＊) …… 20

I-4 割合のグラフ
割合 (5年＊＊＊＊＊) …… 21
帯グラフと円グラフ (5年＊＊＊＊＊) …… 22

I-5 場合を順序よく整理して
組み合わせ (6年＊＊＊＊＊＊) …… 23
並べ方 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 24
資料の調べ方 (6年＊＊＊＊＊＊) …… 25

J 文章題
文章題のひみつ(式とことば) …… 26
かぞえうた(1年＊) …… 27
ぶんしょうだい(たしざん)(1年＊) …… 28
ぶんしょうだい(ひきざん)(1年＊) …… 29
ぶんしょうだい(たし算ひき算)(1年＊) …… 30,31
ぶんしょうだい(かけざん)(2年＊＊) …… 32,33
文章題(わりざん) (3年＊＊) …… 34,35
文章題(かけ算・わり算) (3年＊＊) …… 36,37

答え …… 38,39

目次 （＊の数は、載っている教科書の学年）
[前書き／目次／系統表]

○がい数・四捨五入＊＊＊＊ 1
1 およその数
2 きりすて
3 きりあげ
4 四捨五入

○角度＊＊＊＊ 5
5 かくど
6 ぶんどき・三角定規

○奇数偶数・倍数約数＊＊＊＊＊ 7
7 きすう・ぐうすう
8 ばいすう
9 やくすう
10こうばいすう
11こうやくすう

○平均＊＊＊＊＊ 12
12へいきん
○単位量あたり＊＊＊＊＊ 13
13たんいりょうあたり
○割合、パーセント＊＊＊＊＊ 14
14わりあい、パーセント
○速さ＊＊＊＊＊＊ 15
15速さ
○いろいろな形＊長さ＊＊箱の形＊＊ 16
16はこをつくろう
17いろいろなかたち1
18いろいろなかたち2
19ちずをかこう
20てんとせん

○三角形と四角形＊＊ 21
21三角形と四角形
22三角形と四角形をかこう
23直角
24長方形
25正方形
26直角二等辺三角形

○円と球＊＊＊ 27
27円と球
28円をかこう

○三角形と角＊＊＊ 29
29三角形のしゅるい
30二等辺三角形
31正三角形
32三角形と角
○垂直・平行と四角形＊＊＊＊ 33
33垂直・平行と四角形
34垂直
35平行
36台形
37平行四辺形
38ひし形
39対角線

○合同な図形＊＊＊＊＊ 40
40合同な図形
○線対称と線対称＊＊＊＊＊＊ 41
41線対称
42点対称

○拡大と縮小＊＊＊＊＊＊ 43
43拡大と縮小

○円と正多角形＊＊＊＊＊ 44
44正多角形のしゅるい
45正多角形をかこう

○面積＊＊＊＊図形の面積＊＊＊＊＊
円／概形の面積＊＊＊＊＊＊ 46
46面積
47四角形の面積
48三角形の面積
49平行四辺形の面積
50台形の面積
51ひし形の面積
52円の面積
53およその形と大きさ

○直方体と立方体＊＊＊＊
角柱と円柱＊＊＊＊＊ 54
54直方体、立方体
55角柱と円柱

○体積＊＊＊＊＊
立体の体積＊＊＊＊＊＊ 56
56体積
57立体の体積

○【答え】 58

【系統ドリル２（平成２６年度作成）】

「計算系統ドリル（平成２５年度作成）」は、「A 数と計算」と「C 測定/変化と関係」の一部の内容で構成している。なお、令和２年度作成の「系統ドリル１（改訂版）」は、本ドリルを学習指導要領に基づき、各学年の内容を再構成したものである。

「系統ドリル２（平成２６年度作成）」は、現行の学習指導要領の「C 測定/変化と関係」と「B 図形」の内容で構成している。

「系統ドリル３（平成２７年度作成）」は、数量関係・文章題を中心に構成している。

どのドリルも、日常生活や日本の文化と関連付けることができるように、身近なものの絵や内容を取り入れている。また、児童生徒の自主的な学習につながるように巻末に答えを掲載するなど、工夫した構成となっている。

←【系統ドリル３（平成２７年度作成）】

３　社会科ドリルの作成（平成２８年度～平成３０年度）

「日本史ドリル」を皮切りに、外国人児童生徒等がより分かりやすく学べる教材として開発したのが社会科ドリルシリーズである。教科書の内容を平易な文でまとめ直し、読み取る力を高めたり、読み取った内容の要点を確認し書く力を高めたりする工夫を盛り込んでいる。

日本史日本語プリント

1 縄文時代 ……8
2 弥生時代 …… 10
3 古墳時代 …… 12
4 飛鳥時代(1) …… 14
5 飛鳥時代(2) …… 16
6 奈良時代 …… 18
7 平安時代…… 20
8 鎌倉時代…… 22
9 室町時代 …… 24
10 安土桃山時代(1)…… 26
11 安土桃山時代(2)…… 28
12 江戸時代(1) ……30
13 江戸時代(2) ……32
14 江戸時代(3) ……34
15 明治維新 ……36
16 大日本帝国憲法 ……38
17 戦争の50年 ……40
18 高度経済成長 ……42
日本歴史、点つなぎ…… 44

日本史リズムプリント

19 日本歴史の歌…… 46
20 原始時代の歌…… 48
21 奈良時代の歌…… 49
22 平安時代の歌…… 50
23 鎌倉時代の歌…… 51
24 室町時代の歌…… 52
25 戦国時代の歌…… 53
26 江戸時代前半の歌 54
27 江戸時代後半の歌 55
28 明治からの歌…… 56
29 テスト1……57
30 テスト2……58
ブラジル/ペルーの歴史 ……59
中国の歴史 …… 60
ヨーロッパの歴史 …… 61
参考文献…… 62

【日本史ドリル（平成２８年度作成）】

(目次)

社会科系統進度表 …… 2
この冊子の使い方 …… 3

第1部一地理の基礎プリント
1 愛知県/豊田市 …… 4
2 方角/東西南北 …… 6
3 地図記号 …… 8

第2部一内容プリント(小5の教科書に合わせて)
4 低い土地/高い土地…… 10
5 国土の気候 …… 12
6 あたたかい土地/寒い土地…… 14
7 仕事と産業 …… 16
8 食料生産/米づくり…… 18
9 水産業と食料自給率 …… 20
10 工業生産/貿易 …… 22
11 情報産業…… 24
12 環境…… 26

第3部一日本地理プリント
13 日本地図を書こう…… 28
14 4つの島/8つの地方…… 30
15 日本の領土/工業地帯…… 32
16 日本の山脈・平野・川…… 34
17 都道府県の歌…… 36
18 都道府県の歌テスト…… 38
19 北海道のまとめ…… 40
20 東北地方のまとめ…… 41
21 北海道・東北1 …… 42
22 北海道・東北2 …… 44
23 関東地方のまとめ…… 46
24 中部地方のまとめ…… 47
25 関東1 …… 48
26 関東2 …… 50
27 中部1 …… 52
28 中部2 …… 54
29 中部3 …… 56
30 近畿地方のまとめ…… 58
31 中国・四国地方のまとめ…… 59
32 近畿1 …… 60
33 近畿2 …… 62
34 中国地方…… 64
35 四国地方…… 66
36 九州地方のまとめ…… 68
37 日本地図のまとめ…… 69
38 九州1 …… 70
39 九州2 …… 72

第4部一世界地理プリント
40 世界地図を書こう …… 74
41 大陸/大洋 …… 76
42 世界の地域/面積/人口 …… 78
43 緯度・経度・気候 …… 80

【地理ドリル（平成２９年度作成）】

第1部　バスプリント(小6の教科書に合わせて)

1 子育て支援の願いを実現する政治…… 6
2 震災復興の願いを実現する政治…… 8
3 国の政治のしくみ …… 10
4 私たちのくらしと日本国憲法(1)…… 12
5 私たちのくらしと日本国憲法(2)…… 14
6 私たちのくらしと日本国憲法(3)…… 16
7 国際機関と復興支援…… 18
8 国際協力…… 20
9 国旗と国歌…… 22

第2部　新幹線プリント(中3の教科書に合わせて)

10 現代社会と私たち …… 24
11 私たちの生活と文化 …… 26
12 現代社会の見方や考え方…… 28
13 人権・立憲主義と憲法…… 30
14 国民主権と天皇の地位…… 32
15 基本的人権と個人の尊重…… 34
16 人権を守るための権利と義務…… 36
17 民主主義と政治 …… 38
18 三権分立（国会・内閣・裁判所）…… 40
19 地方政治…… 42
20 消費生活と経済…… 44
21 生産と労働 …… 46
22 価格の働きと金融…… 48
23 政府の役割と国民の福祉…… 50
24 これからの経済と社会…… 52
25 国際社会の仕組み…… 54
26 さまざまな国際問題…… 56

【公民ドリル（平成３０年度作成）】

４　漢字ワークの作成（令和元年度）

日本語の文章を読んだり、書いたりするには、平仮名・片仮名・漢字の習得が必要となる。日本語で学ぶ児童生徒にとって、平仮名・片仮名に比べ、漢字の学習は、困難な壁の一つである。そこで、日本語で学ぶ児童生徒が、漢字に興味・関心をもち、進んで学習に取り組めるように開発したのが本ワークである。

第1部ーうたって、おどって漢字1026　各学年の教科書(東京書籍)に合わせて ･････････ 4

1　かんじ80（１年生で習う漢字）●･････････････････････････････････････ 5

漢字の成り立ちを楽しもう(1)･････････････････････････････････ 14

2　かんじ160（２年生で習う漢字)●●･････････････････････････････････････ 15

漢字の成り立ちを楽しもう　ー漢字のたし算(2)ー　･････････････ 32

3　漢字200（３年生で習う漢字)●●●･････････････････････････････････････ 33

同じ字？ちがう字？？ー外国人からの質問ー（指導者のために1) ･･･ 54

4　漢字202（４年生で習う漢字)●●●●･････････････････････････････････････ 55

5　漢字193（５年生で習う漢字)●●●●●･････････････････････････････････････ 77

中国・台湾・日本の漢字 (指導者のために2)･････････････････････････ 98

6　漢字191（６年生で習う漢字)●●●●●●･････････････････････････････････････ 99

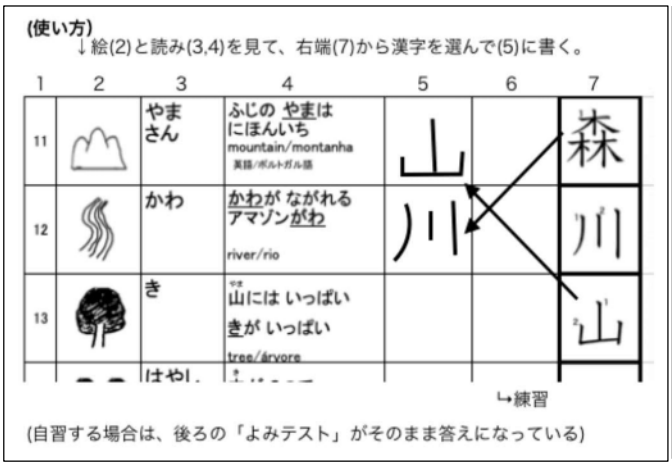
第3部ー部首つなぎ　･･･ 160

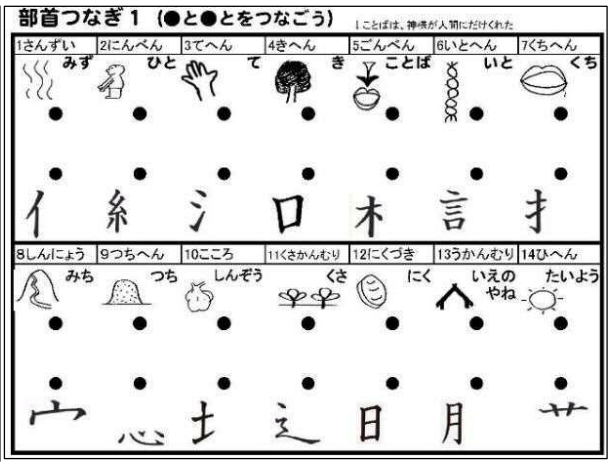
(教師用資料1) 部首別漢字、すべての教育漢字　･････････････････････ 164

(教師用資料2) 成り立ち研究、許慎・藤堂・白川　･････････････････ 167

(教師用資料3) 漢字のためのミニ問題集　･････････････････････････ 168

(文献紹介) 漢字の成り立ちが書かれた本　･････････････････････････ 169





【漢字ワーク　わくわく漢字１０２６（令和元年度作成)】

なお、ここまで紹介してきたドリル・ワークは、POTETO に掲載している。（詳細は、後述）

５　日本語指導カリキュラム等の作成（令和３年度～令和５年度）

「具体的に日本語指導とは、何を、どのように行っていけばよいのか」「教科学習の中で、日本語の力を培っていくためには、どのような指導が大切なのか」など、指導・支援にあたる教職員の一助になることを願い、令和３年度からは、具体的な指導法の提示を活動の中心に据えた。

まず、令和３年度は本委員会の委員を務める学校での授業実践を進め、学習指導案や意識するべき支援例、実際に授業で使用したワークシート等も含めて内容発信を行った。（令和３年度国際協専門委員会活動報告集 第３４集掲載）

資料１：学習指導案

国際教室　第１学年　国語科学習指導案

指導者　○○　○○

１　日　時　令和３年６月○○日（○）　○校時

２　単元名　どうやってみをまもるのかな（５時間完了）

３　本時の指導　（本時　3/５）

（１）目標

教科の目標　アルマジロの身の守り方について，絵と文章を対応させて読み取ることができる。（思・判・表）

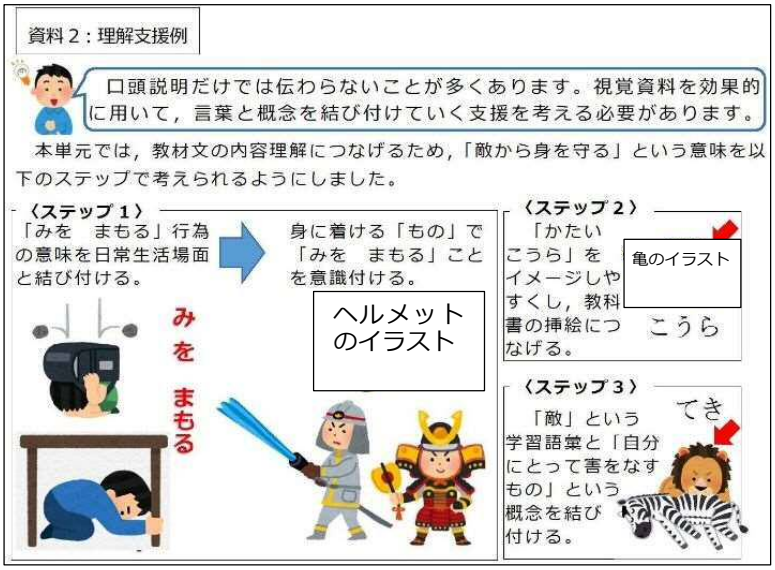
日本語の目標
・「そとがわ」「うちがわ」などの言葉が分かる。
・「かたい」「やわらかい」などの形容詞が分かる。
・読み取った内容「まるめる」「じっとする」を動作化できる。
・動作化したことを，言葉で表現できる。

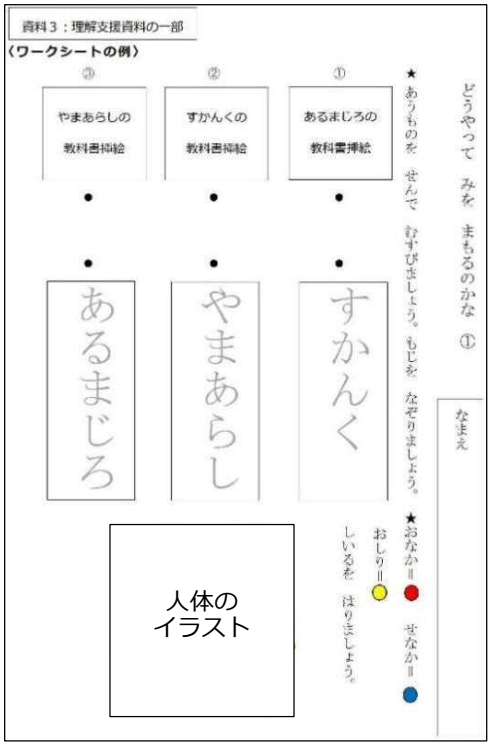
（２）準備　教師：ワークシート，動物の絵（掲示用），デジタル教科書

（３）学習過程

時間	学習過程（学習活動）	教師の支援
つかむ ５分	１　スキルアップをする。 教科書に出てくる語彙をカードや掲示物で確認する。 ●動物の名前 ●ものの位置（上下，内外） ●形容詞	・一人一人が言葉をきちんと習得しているか確認するため，個別に当てたり，繰り返し言ったりする時間を設ける。 ・習ったことを，いつでも見られるように教室に学習の足跡を掲示し，本時の学習に生かせるようにする。
深める ３５分	２　本時の学習課題を確認する。 あるまじろの みのまもりかたを よみとろう ３　本時の学習範囲を音読する。 ４　アルマジロの身の守り方について大事なことを読み取り，ワークシートに書く。 ●動物の名前　●体の特徴 ●質問　●答え ・どうぶつのなまえはわかるよ。 ・からだのとくちょうはなんだろう。 ５　読み取った内容を動作化し，言葉で表現する。 ・「じっとする」はこうするよ。 ・ほんとうにまるくなっているね。 ・あるまじろは，からだをまるめて，みをまもります。	・追いかけ読み，なぞり読みなど，様々な方法で繰り返し音読させることで，なめらかに音読できるようにする。 ・ワークシートに，本文を色分けして載せることで，内容のまとまりに気付けるようにする。 ・解答欄をマス目あり・なしの２種類用意し，文中から大事な言葉を選び出す活動で，自分のレベルに合ったものを使えるようにする。 ・こうらに似せた具体物を用意し，実際に動作化してみたり，映像を見せたりすることで，身の守り方についての理解を深められるようにする。 ・動作と言葉が一致するように，「体を丸めます。」などと，言いながら動作化する場を設ける。
振り返る ５分	６　本時の学習を振り返る。 ・あるまじろの　みのまもりかたがわかりました。 ・○○ちゃんが　じょうずにやっていて　すごいとおもいました。	・日本語でうまく伝えられない児童のために，話型や顔マークを用意し，自分の思いを自分なりに表現できるようにする。 ・「じょうずだった」のような感想には，「何が上手だった」と質問し，具体的に振り返られるように導く。

（４）評価　文中から大事な言葉を選び出し，ワークシートに書くことができる。
【思・判・表】（発言・ワークシート）





令和４年度・５年度は、日本語指導に役立てるカリキュラム作成を中心に活動を行った。集住地区や散在地区を抱える本市の特徴を踏まえ、多様なカリキュラム案の提案を目指し、国語科において小学校と中学校のカリキュラムを整理し、２年間で下記の５つの日本語指導カリキュラムを作成した。

①【小学１年生（西保見小学校の実践を元に作成）】
　国語科を中心にした全取り出し指導の年間カリキュラム
②【小学４年生（平井小学校の実践を元に作成）】
　取り出し指導と入り込み指導を組み合わせた年間カリキュラム
③【小学５年生（西保見小学校の実践を元に作成）】
　全取り出し指導（在籍学級との並行型）による年間カリキュラム
④【中学１年生（保見中学校の実践を元に作成）】
　全取り出し指導（在籍学級との並行型）による年間カリキュラム
⑤【中学２年生（豊南中学校の実践を元に作成）】
　取り出し指導（週１時間程度の部分取り出し）による年間カリキュラム

なお、これらの学習指導案や日本語指導カリキュラム等は、校務支援システム内の POTETO「外国人児童生徒等教育」にて、各ドリル・ワークとともに、データ公開を行っている。

本委員会で作成した様々な教材等が、今後も日本語指導に携わる方の一助として活用され、文化的・言語的に多様な子どもたちの学ぶ意欲につながることを願っている。

＊POTETO 掲載資料の紹介

指導研究委員会作成　日本語指導が必要な児童生徒のためのドリル・ワーク

算数ドリル	社会科ドリル	漢字ワーク
計算系統ドリル	日本史ドリル（PDF）	わくわく漢字1026(PDF) （小学校で学習する1026字を網羅しました）
系統ドリル２（図形領域）	地理ドリル（PDF）	
系統ドリル３（数量関係・文章題）	公民ドリル（PDF）	
系統ドリル１（改訂版）		

01　日本語１（小学１年生）国語年間指導計画
02　小学４年生　国語科日本語取り出し指導（先行）
03　小学５年生　国語科日本語取り出し指導（並行）
04　中学１年生　国語科日本語取り出し指導（全取り出し）
05　中学２年生　国語科日本語取り出し指導（先行）
06　カリキュラム紹介
07　学習指導案例やワークシート例等

＊この他に、小学校言葉ワーク、ルビ付き教科書、リライト教材等、外国人児童生徒等教育に役立つ資料を掲載している。

４　情報委員会活動報告

Ⅰ　外国人児童生徒等・保護者教育説明会

１　令和５年度の取組について

２　外国人児童生徒・保護者教育説明会の概要

３　教育説明会の実際

４　成果と課題

Ⅱ　リーフレット「夢にむかって」の改訂

Ⅰ　外国人児童生徒・保護者教育説明会

１　令和５年度の取組について

外国人児童生徒とその保護者を対象にした教育説明会は、本年度で21回目を迎えた。対象を、小学生(5・6年生)から中学生までの幅広い学年の児童生徒及び保護者としていること、また、高校や大学で学ぶ外国人学生の体験談や助言、グループ別相談の時間等を充実させるための工夫を重ねてきたことで、参加者からは大変好評を得ている。本年度は参加者から、ポルトガル語・中国語・スペイン語・タガログ語・英語・ベトナム語・ネパール語の通訳希望があったため、可能な限り対応できるよう配慮した。

本年度の説明会には143名の参加希望があった（表１参照）。これは、外国人児童生徒及びその保護者が、様々な悩みを抱えながら日本での生活に適応しようと努力していることの証でもある。本説明会を通して、日本での子育てや中学校卒業後の進路、また勉強方法等に関する情報を分かりやすく提供するとともに、外国人同士が情報を交換し、悩みを打ち明けて相談し合う場になればとも考えている。参加者の多様なニーズに応えられるように、説明会の準備を進めた。

２　外国人児童生徒・保護者教育説明会の概要

（１）日時　令和５年７月２２日（土）　午前10時から正午まで
（２）会場　豊田産業文化センター３階　豊田市国際交流協会（TIA）ラウンジ
（３）参加状況（表1・2参照）

参加者の募集は、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語、英語、ベトナム語、 日本語の７言語の参加申込用紙を準備し、市内全小中学校を通して配付した。６月中旬から参加募集を行い、夏休み直前に再度、各学校を通して参加の確認を行った。

【表１　参加申込状況】（参考）昨年度申込者：合計183名

	小学校			中学校			合計
国　籍	児童	保護者	計	生徒	保護者	計	人数
ブラジル	12	14	26	17	23	40	66
スペイン	0	0	0	1	1	2	2
ペルー	0	0	0	4	4	8	8
中　国	2	2	4	2	4	6	10
フィリピン	4	6	10	12	14	26	36
ベトナム	1	1	2	1	2	3	5
モンゴル	1	1	2	1	1	2	4
ネパール	0	0	0	2	2	4	4
カンボジア	0	0	0	1	1	2	2
日本	1	1	2	1	3	4	6
合　計	21	25	46	42	55	97	143

当日の最終的な参加者数は、児童生徒と保護者を会わせて72名となった。

昨年度と比較して国籍が増え、外国人児童生徒・保護者の日本での進路や就職先等への関心の高さが感じられた。

本年度は入試制度が新しくなって２年目の会であった。全体会では入試制度や出

願方法等について丁寧に説明を行い、グループ別相談会でも各担当の進路指導主事が、一人一人の質問に答えた。

【表２　実際の参加状況】　（参考）昨年度の参加者：合計109名

	小学校			中学校			合計人数
国籍	児童	保護者	計	生徒	保護者	計	
ブラジル	4	6	10	11	13	24	34
スペイン	0	0	0	1	1	2	2
ペルー	0	0	0	1	1	2	2
中　国	1	1	2	1	3	4	6
フィリピン	2	2	4	6	8	14	18
ベトナム	0	0	0	1	1	2	2
モンゴル	0	0	0	0	0	0	0
ネパール	0	0	0	1	2	3	3
カンボジア	0	0	0	0	0	0	0
日本	1	1	2	1	2	3	5
合　計	8	10	18	23	31	54	72

【講師】
衣台高等学校 教頭
中学校進路指導主事 12 名

【学校日本語指導員】
ポルトガル語３名
スペイン語１名、中国語２名
タガログ語１名、英語１名
ベトナム語１名

【体験発表者】
大学生１名（ブラジル）
高校生３名（ボリビア・ペルー・中国）

【主催者】
情報委員会委員８名
市教委指導主事２名

【参観者】
市内小中学校関係者

（４）会の流れと内容

◇主催者あいさつ

・豊田市教育国際化推進連絡協議会情報委員長

◇第１部　全体会「外国人児童生徒教育の現状と進路について」

・中学校の現状について・・・・・・・・・情報委員会委員

・卒業後の進路について・・・・・・・・・情報委員会委員

・高校での外国人生徒の様子について・・衣台高等学校 教頭

・先輩へのインタビュー・・・・・・・・・大学生１名（ブラジル）
高校生３名（ボリビア・ペルー・中国）

◇第２部　グループ別・個別相談会

・衣台高等学校教頭　・中学校進路指導主事

・先輩である大学生、 高校生が助言

３　教育説明会の実際

（１）第１部　全体会

「外国人児童生徒教育の現状と進路」

全体会では、愛知県立衣台高等学校の教頭、中学校の進路指導主事、情報委員会委員が、外国人児童生徒教育の現状と進路、企業が求める力や就職の状況についての説明をした。その後、大学や高等学校で学ぶ外国人学生の体験談や助言を得る機会を設けた。会場では日本語での説明や話が理解

＜熱心に説明を聞く参加者＞

できない人もいるため、言語別に11のグループをつくり、各グループに通訳を配置したり、通訳パナガイド（タガログ語・ポルトガル語）を貸し出して同時通訳を行ったりした。

ア　中学校の現状と卒業後の進路について（中学校進路指導主事）

参加者が使用する言語に翻訳した資料を使い、中学校卒業後の進路や受検についての説明があった。

＜進路指導主事 澤田先生の説明からの抜粋＞

＜進路情報を説明する澤田先生＞

○中学校卒業後の進路について

・中学校卒業後の進路として、進学と就職がある。進学先としては、国立・公立・私立高等学校（全日制普通科、全日制専門学科、全日制総合学科、定時制、通信制）、専修学校等がある。

○公立高等学校について

・ＡグループとＢグループに分かれており、一般選抜は２校受検することができる。２校に出願しても学力検査は１回のみ。面接の有無は学校ごとに異なる。

・外国人等選抜は、外国籍であり、小学４年以上の学年に編入した者や、入国後の在日期間が６年以内の者が対象となる。豊田市内には、衣台高等学校と豊田工科高等学校がこの制度のある学校である。検査は国語・数学・英語の３教科の基礎学力検査と個人面接を受ける。

・推薦選抜を希望する場合は、中学校長の推薦が必要。特別検査のある学校もある。

○私立高等学校について

・一般入試と推薦入試がある。推薦入試は中学校長の推薦が必要であり、推薦選抜で合格した場合は、必ずその学校に入学する。

・一般入試の試験日が異なる学校であれば、複数校受検することができる。

・合格した場合は、一時金として２万円程度を支払う必要がある。一時金の支払いをしないと合格が取り消されることがある。

○定時制高等学校について

・一般的に、午後５時から午後９時の間に授業が行われる学校が多い。一部、昼間定時制という、昼間に授業を行う定時制高校もある。

・昼間定時制の高等学校は希望者が増えており、倍率が高くなっている。

○通信制高等学校について

・学力検査は行わない。作文や面接が行われることがある。

・自宅での自主学習が基本。学習した内容をレポート等にまとめて提出する。自主学習を支援する「サポート校」もある。

○専修学校について

・一般入試と推薦入試がある。推薦入試は中学校長の推薦が必要であり、推薦入試で合格した場合は、必ずその学校に入学する。

・専門的な知識や技術を身につける学校である。
○進学に向けて大事なこと
・進学するには試験があるので、勉強を一生懸命しなくてはいけない。特に日本語の学習が大切。
・進学にはお金がかかるので、しっかりお金を貯めておく必要がある。
○就職について
・中学校卒業者のほとんどが進学を希望している。就職は非常に厳しい状況である。
・令和４年度の中学校卒業者を対象とした求人は、豊田市とみよし市を合わせて数社。運転免許のない年齢なので、通勤の条件等で選択肢は非常に少ない。
・県内の高等学校卒業者に対する求人は3万人以上あり、就職希望が1万人程度であることから考えると、求人倍率は３倍程度になる。
・規則正しい学校生活を送ること、欠席日数を少なくすることが大切。
・保護者の生き方や考え方も大切なので、家族でよく話し合っておく。
・日本語での読み書きができないと就職は難しい。就職後も日本語の学習を継続することも大切。
・進学でも就職でも、面接等での第一印象は大切。笑顔で自然なあいさつができるようにしたい。
・職業安定所には外国人専門の相談員が配置されている。

イ　進学後の費用について

情報委員会で作成したリーフレットを使用して、進学後に必要となる制服等の費用について説明を行った。

＜情報委員会委員 澤田先生の説明からの抜粋＞
○高校進学後にかかる費用について
・高等学校、専修学校では、入学金、授業料が必要。
・保護者の収入などの条件により、補助が受けられる制度がある。
・補助については、私立高校、専修学校の場合は、支払った後に返金されるようになっている。
・公立高校は、補助を受けることで、授業料の支払い額が減額される。
・学校の授業で扱う教科書等の費用も多く必要になる。
・奨学金や特待生制度等で補助を受けられる場合もある。

ウ　高校での外国人生徒の様子について

衣台高校における外国人生徒の状況を始め、「外国人生徒等選抜入試」や校内での外国人生徒への支援についての説明があった。

＜衣台高等学校教頭　梅村先生の説明からの抜粋＞
〇衣台高校では、「外国人生徒等選抜入試」を実施している。受検の条件はあるが、試験科目は国語、数学、英語での基礎的な内容。漢字にはルビがつい

ている。
令和５年度入学分の試験からは制度が変わり、「外国人生徒等選抜入試」と「一般入試」が別日で実施される。
○外国人生徒への支援は、「外国人生徒教育支援員の配置」と「取り出し授業」を行っている。
○約４０人の外国人生徒に取り出し授業を行っている。
○「外国人生徒教育支援員」は、ポルトガル語、中国語、タガログ語、ウルドゥー語、スペイン語の支援員が週 1～2 日配置されている。取り出し授業での学習支援や放課後の日本語学習のほか、保護者対応や生徒の精神的なサポートを行っている。
○取り出し授業は「外国人生徒等選抜入試」で入学した生徒を対象に、一部の教科について取り出しによる授業を行っている。
○そのほかに、週１回の衣台放課後日本語教室や入学時の日本語テスト、進学や就職に関する保護者説明会を行っている。
○SSW（スクールソーシャルワーカー）が在籍し、生活保護などの相談、奨学金や教育ローンの手配などの相談などを行っている。
○高校入学のためのお金について、授業料は軽減される場合もあるが、入学金や諸経費等必要なお金はあるため、早くからの準備が必要である。

エ　外国人体験発表について
愛知教育大学で学ぶ千代田美和さんを講師に招き、来日から現在に至るまでの自身の体験発表を行った。

＜大学生　千代田美和さんの体験発表からの抜粋＞
○学校で困ったことについて
・分からない日本語が多かった。
→本を読むことで、分かる日本語を増やした。
・家で宿題のやり方が分からなかった。
→学校の先生に積極的に質問をして勉強に取り組んだ。

○勉強について
・どの職業においても勉強が必要。
パティシエ（専門学校）、
スポーツ選手（高校・大学）
・勉強は、未来の自分のためにする。
自分の好きなこと、興味のあることを見つけて。　→夢につながる。
努力をやめないで。　→努力を重ねることが、将来の夢につながる。
国籍を理由に夢をあきらめないで。
→苦手なことも努力を重ねることで実現できる。

＜体験発表をする千代田さん＞

オ　外国人生徒等へのインタビュー

国立大学で学んでいる方１名、公立高校で学んでいる方３名に、インタビュー形式でこれまでの学びや後輩に伝えたいこと等について話をしていただいた。

＜外国人体験発表者の発表から抜粋＞

Q：学校でどんなことに困りましたか。また、どうやって乗り越えましたか。

○Ａさん（ブラジル出身／１歳のときに来日／国立大学に在学中）

１歳のときに来日しましたが、分からない日本語が多いことで困りました。そのため、本を読むことから始めました。本を読むのは難しかったですが、簡単な絵本から始め、年間２００冊の本を読みました。小学校に入学したときには、日本語が少し話せるようになっていました。

＜自身の体験について話す発表者＞

○Ｂさん（ボリビア・日本のダブル／日本生まれ／公立高校に在学中）

私も、日本語が分からないことが多かったので、友達と話したり先生に聞いたりしていました。分からないことがあったら、すぐに聞くことが大事だと思います。

○Ｃさん（ペルー・日本のダブル／日本生まれ／公立高校に在学中）

勉強が一番大変でした。国語や算数もそうですけど、日本語をちゃんと理解しないと先生が何を言っているのか分からなかったです。私の通う学校には通訳の先生がいたので、通訳の先生に分からない言葉を聞きながら一緒に勉強をがんばりました。

○Ｄさん（中国出身／小学５年生のときに来日／公立高校に在学中）

私は、理科が苦手でした。定期テストの期間になると、理科の問題集を２～３回解いて勉強をしました。

Q: 高校に進学した理由は何ですか。

○Ａさん

私が高校に進学しようと思った理由は、親に薦められたからです。高校に進んだことで、大学に進学することができ、今の就職先に就職することもできました。

○Ｂさん

私は、就職したいからでした。自分の高校は、取れる資格がたくさんある学校で、その選択肢がたくさんあるから、その学校に進学しようと思いました。

○Ｃさん

私も、就職したいからでした。中学校卒業だけでは、就職先の紹介が少ないと聞きました。今の高校は、外国人生徒も多いし、言葉の分かる先生が多く、分からないことも聞きやすいので進学を決めました。今は、夢に向かっ

て励んでいます。

○ **Dさん**

私は、通訳とか翻訳家になりたくて、そのためには大学に行って国際科のコースに通わないとなれないので、そこに通うために高校進学を決めました。

Q: 中学３年生のときに、どのような勉強をしましたか。

○ **Aさん**

私は、すごく勉強が苦手で、勉強を後回しにしてしまうところがあったので、ノートに今日やる宿題とかをチェックして、ゲーム感覚で勉強をがんばりました。

○ **Bさん**

私も勉強が苦手でした。でも、中学２年生の後半から「勉強しなきゃ」という気持ちが出てきました。中学３年生は、全力で勉強をがんばりました。

○ **Cさん**

私も勉強が大の苦手でした。でも、高校進学を考えるときに、先生から「このままでは進学が難しい」と言われました。「１年生から３年生までの勉強を振り返ろう」というアドバイスを受け、中学１年生の勉強からやり直しました。

○ **Dさん**

私は、一人で勉強しているとやる気がでなくて後で勉強してもいいかなと思ってしまうので、友達を誘って一緒に自習室や図書館で勉強していました。

Q: 会の参加者に、アドバイスやメッセージをお願いします。

○ **Aさん**

私は、お金のことが心配でした。私立大学にすると、４年間で４００～５００万円かかってしまいます。私は両親のためにも、国立の学校に進むことを決めました。自分の将来のために今できることを、少しずつがんばってほしいです。

○ **Bさん**

親子のコミュニケーションが大事なので、子どもの状況を理解し、子どもとも話して、学校生活や成績に影響が出ないようにサポートをしてあげてほしいです。

○ **Cさん**

私には、いつも側に親がいてくれました。やっぱり親とのコミュニケーションは大事だと思うし、親が子どもの夢を応援してあげることが大事だと思っています。

○ **Dさん**

私は、早寝・早起きが大事だと思います。夜更かしをすると、学校を遅刻するかもしれません。勉強に集中するため、生活リズムを整えることは大事だと思います。

（２）第２部　グループ別・個別相談会

言語や小中学校の別、相談しやすい人数を考慮して、11グループを編成した。各グループには、進路指導主事と通訳、情報委員を配置した。さらに、大学生や高等学校に通う外国籍の４名もグループに加わったり、個別相談ができるように個別対応の進路指導主事を配置したりして、参加者からの質問に答えた。

◇**主な相談内容**　　※（　　）は講師の回答の概要

【受検関係】

・公立高校を途中で辞めて、違う学校に編入できるか。（通信制等であれば可能な学校はある。全日制はほぼ無い。）

・公立受検に全て失敗したら高校に行けないのか。（定員に達していなければ二次募集があることもある。３月末まで出願可能な通信制高校もある。）

・英語だけで高校受検はできるのか。（私立高校で受検制度がある可能性はある。）

・受検できる組合せは。（公立高校のＡ・Ｂグループの組合せや、私立高校や専修学校との併願受検ができる。）

・公立と私立の違いは。（授業料、設備、学べること。）

・推薦はどういった基準でもらえるか。どうやって推薦をもらうのか。（その学校を卒業できる学力があること、学校の諸活動に積極的であることは必要。推薦生徒については中学校の推薦委員会で検討される。）

・私立と公立は同じ日に入試があるか。いくつ受けることができるか。（入試日程が違えば、国立１校、公立２校、私立・専修３校の合計６校受検することができる。）

・公立の受検の申し込みはどのようにしたらよいのか。（在籍中学校からの指示で書類等を作成するか、インターネットで登録する。）

・今の成績でどこの学校に行けるのか。（入れる学校ではなく、入学してからその学校で何をどうがんばって、その先をどうするのかを考えて、お子さんに最適な学校を選択してもらいたい。体験を話していた高校生のように、まずはどんな夢や目標をもって進学したいのかを考えること。日本の大学では、入学試験の際に、手厚いサポートはない。日本語がまだ十分ではないならば、まずは「衣台高校」を選択すれば、公立高校なので金銭的な面も含めて、サポートが受けられる。体験入学などに参加してみるとよい。）

・英語を勉強したい。（聖カピタニオ女子高等学校や安城学園高等学校では、英語コースがある。光ヶ丘女子高等学校には、国際教養科がある。学力（日本語を含む）が必要。

・１、２年生でも高校に行って話を聞くことはできるか。（中学校の先生を通して日程を調整すれば受け入れ可。）

【お金関係】

・私立の前納金について（愛知県の場合、２万円程度を支払うことで、公立の合格発表まで合格の権利を維持しておける。他府県の場合それぞれ確認が必要。）

・お金が心配だがどうしたらよいか。（進学時のお金のサポートとして、私学助成金、就学支援金、奨学金の３種類がある。）

<グループごとによる相談>

【高校等の学習や生活】
・高校の給食は。（基本的に小中学校のような給食は無いが、ランチルームや売店がある学校もある。
・英語が得意なので英語が生かせる学校・コースはあるか。（公立、私立ともにいろいろある。）
・高専（5年間）について教えて欲しい。（産業に関わる知識・技能の育成を行うための学校。5年後は、就職や、大学3年次に編入、高専の専門課程に進む。専門課程は4年制大学卒業と同等となる。）
・高専を第2希望、公立を第１希望にできるか。（公立高校の合格発表よりも前に、高専の入学意志を決めたという書類を高専に出すので、公立高校が第1であれば、高専の合格を辞退することになる。）
・定時制はどうか。（例えば豊田西高等学校の定時制なら、充分な日本語ができない状況で入学してしまうと、テストで結果を出して、単位を取得することがとても難しい。学びを続ける環境としては、衣台高校で学ぶよりも難しいかもしれない。）
・私立高校と専修学校との違い。（専修学校では、専門的な勉強をする学校と高校資格を取得するために通う学校との2校に所属することになるので私立高校よりもお金が高くなる。）
・進学先で、保護者が日本語をうまく話せない時に、どうすればいいか。（日本語を上手に話せない親御さんのことはある程度理解していただけると思うので、まずは学校に相談。通訳アプリなどを使って会話する方法もある。）
・衣台高校の取り出しは、日本生まれや一般選抜で入学した場合でもやってもらえるか。（外国人選抜が優先だが、毎年余裕があるので希望すれば多くは取り出しに参加可能。）
【小中学校の学習や生活】
・受検校や就職はいつ決めるのか。（中３の１１月～１２月。就職はそれより早く決定していくことになる。）
・日本語に不安があるが、誰に相談すればよいか。（在籍校に相談）
・中学１年からやっておいた方がいいことはあるのか。（学習に力を入れる、進学希望ならお金を計画的に貯める、将来どのような仕事をしたいか目標をもつ。）
・夏休みの宿題が全くわからない。教えてくれる教室は無いか。（在籍校に相談）
・学習塾にいつから入ればいいか。（家庭の経済状況と子どものやる気次第、自学自習でやっていくことも可能。）
・中学生になるのにテストはあるか。（公立中学の入試は無い。）
・中学校の勉強は難しいか。（小学校より難しい。小学校の段階から学ぶ・考える楽しさを身に付けていきたい。）
・小学校の成績は高校入試に関係あるか。（直接は関係ないが、積み重ねが大事になる。小学校のうちによい学習習慣を身に付けていきたい。）
・小学生の子どもは日本語がほとんど話せない。中学校の様子が知りたい。（進学予定となる中学校に、小学校の先生を通じて問い合わせをする。中学校での日本語指導員の希望も早めにお伝えしておく。学習内容が難しくなるので、日本語の学習が大事。）

【就職や将来のこと】
・将来、観光業に就きたい。（足助高校の観光ビネスコース等がある。）
・日本国籍でないと入れない大学や就職先はあるか。（自衛隊など日本国籍が必要なこともある。）
・警察官になりたいが、日本国籍が必要か。（日本国籍が必要。）

<一人一人の相談に答える進路指導主事>

【その他】
・これから行く中学校や高校は家庭で選べるか。
（公立中学は選べない。私立中学校なら選べるが、入試がある。高校は、公立の普通科は三河地区のみ、専門学科については愛知県内すべて受検できる。私立高校はどこでも受検できる。）
・ことばの教室に通っているが、そのあとの日本語の学習を支援してくれる場所はあるか。（TIAが学習サポートを紹介）
・ことばの教室に通っているが、あまり日本語が上達していない。家ではどのように学習を進めていったらよいか。（同じグループの中学生たちが、絵本を読むことを進めていた。）
・ことばの教室から、普通の中学校に通うことになるが、とても心配。友達ができるかどうか。（同じグループの中学生たちがアドバイスをしていた。できるようになるから大丈夫。）

4　成果と課題

教育説明会に参加した児童生徒・保護者の感想（抜粋）

・日本の教育システムを知ることができて大変役に立ちました。
・外国人の子どもが知識と学校情報を得るためにとてもよかったです。
・この会に参加できてうれしく思っています。
・この会を通して多く学ぶことができました。
・初めてこのような会に参加しました。進学や就職のことを聞いて、とても参考になりました。今日もらった資料を持ち帰って、家で（特に学費など）真剣に読みたいと思います。
・話を聞けて良かったと思います。
・説明会で高校の話をしてくれてありがとうございました。
・とても大切な会だと思います。なぜなら、高校の情報を得るだけではなく、高校生からの見方を知ることもできたからです。
・将来の備えとしてとてもよいです。
・疑問を解くにはよい会でした。
・特に高校生と大学生の体験を聞くことができて、とてもよかったです。
・多くの疑問を解くこともできました。息子の進路を決めるために参考になる多くの情報が提供されていました。
・とても気に入りました。自分の一番大きい疑問を解くことができました。

・多くの情報があって、よかったです。分かりやすい説明でした。
・教育について理解することに役立ちます。
・日本で学習している私たちの子どもにとって必要な情報です。
・良かったです。子どもにあった高校を選ぶために正しい情報を得られたからです。
・会議の方向性が素晴らしかったです。進学にどんな学習をした方がいいかを理解できました。

（１）活動の成果について

72名の外国人児童生徒・保護者の方の参加があり、興味・関心の高さを感じた。当日は、産業文化センター内で他の行事が行われていたため、 駐車場が大変混雑し、参加者に迷惑がかかってしまった。結果的に、受付時間に間に合わない様子等も見られた。

第１部の 全体会では進路に関する説明を熱心に聞く姿が見られ、将来の生活を考える上での情報を求めている様子が感じられた。特に、進学先となる高校生活の様子や学費などについて興味、関心が高かったように思われる。参加生徒の先輩にあたる外国人大学生や高校生の体験談では、目標をもつことの大切さや学力を伸ばすことに努力した経験等を、多くの参加者が納得しながら聞く様子が見られた。先輩の経験談は参加者にとって説得力があり、次年度以降も、本コーナーの一層の充実を図っていきたい。参加者のアンケートの結果を見ると本会の内容には十分満足されており、本会の継続を望む意見が多く聞かれた。

第２部のグループ別相談会では、様々な角度から自由に話をしたり、質問をしたりすることができていた。そのため全体会で聞いた内容を更に詳しく尋ねたり、日頃感じている疑問などを熱心に質問したりする様子が見られ、本会のねらいに迫ることができた。

（２）検討課題について

本年度は、参加者の来場時刻がぎりぎりであったり、予想以上に受付に時間がかかったりしたために開始時刻が若干遅れた。受付の方法やスタッフの配置の工夫、受付時刻の見直し等について、運営側の今後の検討課題としたい。また、高校の先生を含めた講師の話や先輩の経験談、グループ別相談会等、参加者にとってより満足がいく会になるよう、内容や時間配分について検討していきたい。

Ⅱ　リーフレット「夢にむかって」の改訂

これまで作成してきた外国人児童生徒のためのリーフレット「夢にむかって」を見直し、変更のあった点や連絡先を調べ直し、改訂版を作成した。学校行事の見直しによる変更点や、外国人児童生徒保護者のための支援が受けられる愛教大リソースルームなどは、二次元コードを掲載し使いやすくした。まだ、完成していないリーフレットもあるが、今後、外国人児童生徒保護者への情報提供の一助となれば幸いである。

また、「～夢にむかって～インタビュー」は、豊田市で育った先輩の体験に基づいた説得力のあるもので、応援メッセージにもなっている。外国人児童生徒に一読してもらえたらと願っている。

～夢にむかって～
インタビュー

【体験発表者】
Aさん(ブラジル出身／１歳のときに来日／国立大学に在学中)
Bさん(ボリビア・日本のハーフ／日本生まれ／公立高校に在学中)
Cさん(ペルー・日本のハーフ／日本生まれ／公立高校に在学中)
Dさん(中国出身／小学校5年生のときに来日／公立高校に在学中)

Q: 学校でどんなことに困りましたか。また、どうやって乗り越えましたか。

○Ａさん
１歳のときに来日しましたが、分からない日本語が多いことで困りました。そのため、本を読むことから始めました。本を読むのは難しかったですが、簡単な絵本から始め、年間２００冊の本を読みました。小学校に入学したときには、日本語が少し話せるようになっていました。

<質問に答えるＡさん>

○Ｂさん
私も、日本語が分からないことが多かったので、友達と話したり、先生に聞いたりしていました。分からないことがあったら、すぐに聞くことが大事だと思います。

○Ｃさん
勉強が一番大変でした。国語や算数もそうですけど、日本語をちゃんと理解しないと、先生が何を言っているのか分からなかったです。私の通う学校には通訳の先生がいたので、通訳の先生に分からない言葉を聞きながら一緒に勉強をがんばりました。

○Ｄさん
私は、理科が苦手でした。定期テストの期間になると、理科の問題集を２～３回解いて勉強をしました。

Q: 高校に進学しようとした理由は何ですか。

○Ａさん
私が高校に進学しようと思った理由は、親に薦められたからです。高校に進んだことで、大学に進学することができ、今の就職先に就職することもできました。今考えると、一番良かったなと思っています。

○Ｂさん
私は、きちんとした職業に就職したいからでした。自分の高校は、取れる資格がたくさんある学校で、その選択肢がたくさんあるから、その学校に進学しようと思いました。

<質問に答えるＢさん>

○Ｃさん
私も、就職したいからでした。中学校を卒業してからの仕事は絶対大変だと、親に言われました。就職先の紹介も、中学校卒業だけでは少ないと聞きました。今の高校は、外国人生徒も多いし、言葉の分かる先生が多く、分からないことも聞きやすいと聞いたので進学を決めました。今は、夢も見つかり、夢に向かって励んでいます。

○Ｄさん
私は、通訳とか翻訳家になりたくて、そのためには大学に行って国際科のコースに通わないとなれないので、そこに通うために高校進学を決めました。

Q: 中学校３年生のときに、どのような勉強をしましたか。

○Ａさん
私は、すごく勉強が苦手で、勉強を後回しにしてしまうところがあったので、ノートに今日やる宿題とかチェックして、ゲーム感覚で勉強をがんばりました。

○Ｂさん
私も勉強が苦手なので、勉強に熱心に取り組んでいませんでした。でも、中学校２年生の後半から「勉強しなきゃ」という気持ちが出てきました。中学校３年生は、全力で勉強をがんばりました。

<質問に答えるＣさん>

○Ｃさん
私も勉強が大の苦手で、中学校３年生の前期までずっと遊んでいました。でも、高校進学を考えるときに、先生から「このままでは進学が難しい」と言われました。「難しい勉強をしなくても

いいから、とにかく１年生から３年生までの勉強を振り返ろう」というアドバイスを受け、中学校１年生の勉強からやり直しました。

○Ｄさん

私は、一人で勉強しているとやる気がでなくて、後で勉強してもいいかなぁと思ってしまうので、友達を誘って一緒に自習室に行ったり、図書館で勉強したりしていました。

Q: 会の参加者に、アドバイスやメッセージをお願いします。

○Ａさん

私は、大学に進むときにお金のことがすごく心配でした。一年で１００万円以上かかる学校にすると、四年間で４００～５００万円かかってしまいます。私は両親のためにも、なるべく国立の学校に進むことを決めました。まだ時間があると思うので、自分の将来のために今できることを、少しずつがんばってほしいです。

○Ｂさん

親子のコミュニケーションが大事なので、子どもが学校でどういう状況なのかを理解し、子どもとも話して学校生活や成績に影響が出ないようにサポートをあげてほしいです。

○Ｃさん

私には、いつも側に親がいてくれました。やっぱり親とのコミュニケーションは大事だと思うし、親が子どもの夢を応援してあげることが大事なんじゃないかと思っています。

○Ｄさん

私は、早寝・早起きが大事だと思います。夜更かしをすると、次の日に学校を遅刻するかもしれません。学校によっては、反省文などのペナルティーがあると聞きます。勉強に集中するため、生活リズムを整えることは大事だと思います。

＜質問に答えるＤさん＞

5　国際理解委員会活動報告

Ⅰ　「国際理解教育の推進」実践授業例～小学校編～

・豊田市立美山小学校での実践

Ⅱ　「国際理解教育の推進」実践授業例～中学校編～

・豊田市立末野原中学校での実践

Ⅲ　５分でできる現職教育

Ⅳ　令和５年度　国際理解教育に関する実態調査（結果）

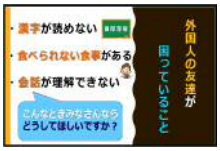
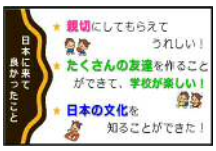
Ⅰ　「国際理解教育の推進」実践授業例～小学校編～

1　はじめに

豊田市には、現在小学生 841 人、中学生 398 人、計 1,239 人の外国人児童生徒がいる。都道府県別の外国人児童生徒数ランキング１位は、なんと愛知県である。また、今後も増え続けることが予想される。しかし、そのことを知っている教師や児童生徒が少ないのが現状である。そこで、現状を知ってもらうこと、困っていることを知ってもらうこと、この２つを目的とした授業が気軽にできるパワーポイントを作成した。豊田市の小学校で国際理解教育の授業に活用してほしい。

2　豊田市立美山小学校での実践

	学　習　活　動（簡易指導案）	児　童　の　様　子
導入 10分	1　問題を出し、考えさせ、現状を知らせる。 （パワーポイント NO.1～NO.9） ・第１問：何のベスト３か。 ・第２問：愛知県には何人の外国人の友達がいるか。 	・突然の問題に興味津々であった。 ・１問目の「何のベスト３」であるかの問題には、愛知県が１位であることから、「車の生産量」「自動車産業」等、自動車関連の答えが多かった。正解が「外国人の友達」と知り、驚く様子が伺えた。 ・次に、「愛知県には何人の外国人の友達がいるか」を、三択で考えさせた。②の 5,000 人を選ぶ児童が多かったので、③の 10,000 人と知り、驚きの声が上がった。そこで、なぜ、豊田市に外国人の友達が多いのかを考えさせたり、美山小学校に在籍している外国人の友達の数を数えさせたりした。豊田市に自動車関連の工場が多いことから、これからも外国人の友達が増えることを理解したようだった。
展開 30分	2　自分が外国の小学校に通うことになったら困ることを考え、発表する。 （パワーポイント NO.10～NO.11） ・隣の児童と話して OK とする。	・「自分が外国の小学校に通うことになったら困ること」を考えさせた。 ・言葉が分からない。 ・文字が分からない。 ・教科書が読めない。 ・学校のルールが分からない。 ・何をすれば良いのか分からない。 ・授業の内容が分からない。 ・友達とコミュニケーションがとれない。 等、自分事として捉え、考えを発表することができた。

	3　学級の外国人の友達に実際に困っていることを聞く。 （事前のパワーポイントの中には、入っていないが、児童の意識を高めるために取り入れた）	・本学級の外国人（中国）の友達は、「ことばの教室」に通わず、４月から美山小学校に編入してきた。現在、２時間の取り出し指導と 10 時間の入り込み指導を行っている。しかし、まだまだ日本語の支援が必要な児童であるため、困っていることを聞いてみた。 ・言葉、ルール、宿題、授業の内容、先生の指示等、実際に困っていることを発表してくれた。それを聞いて、外国人の友達が困っていることに初めて気付いたようだった。
	4　実際に豊田市にいる外国人の友達が困っていることを知る。 （パワーポイント NO.12～NO.14）  	・豊田市にいる外国人の友達も学級の外国人の友達と同じことで困っていることを知った。また、自分が外国の小学校に通ったら困ると考えたことも同じであるとことに気付き、相手の立場に立って考える大切さを知った。
	5　外国人の友達が日本に来て良かったと思ったことを知る。 （パワーポイント NO.15～NO.17）  ・学級の外国人の友達が日本に来て良かったと思ったことを知る。	・外国人の友達が日本に来て、困っていることばかりではなく、良かったと思っていることがあると知り、ほっとしていた。 ・学級の外国人の友達も、日本に来てよかったことを「みんなが親切・給食がおいしい」と発表してくれたので、みんな嬉しそうだった。
まとめ 5分	6　授業を振り返り、分かったこと・これからの生活に生かしたいことを振り返り用紙に書き、発表する。	・学級の外国人の友達が困っていること、日本に来て良かったと思っていることが聞けて良かった。 ・「外国人の友達には、ゆっくり話したり、漢字の上にふりがなをふってあげたりしたい」等、気付いて欲しいことが振り返り用紙に書いてあった。

3　おわりに

豊田市の現状や、外国人の友達が困っていること等を知る機会になった。自分にとって当たり前だと思っていることが、外国人の友達には難しいということや、どのようなことに困っているかに気付くことができた。この授業をきっかけに相手の立場を考えたり、支え合ったりできる子に育ってほしいと願う。

Ⅱ　「国際理解教育の推進」実践授業例～中学校編～

１　はじめに

豊田市教育国際化推進連絡協議会の調査委員会による調査結果から、２０２２年度５月１日現在、豊田市立の小中学校に在籍している外国人児童生徒数は合わせて１,２３９人となっている。小中別では、小学校は５０校で８４１人、中学校は２５校で３９８人となっている。その数は２０２１年度と比較しても増加しており、市内小中学校の約８割に外国人児童生徒が１人は在籍している。全市的に多数の外国人児童生徒が在籍しており、この先も増えていくと予想されている。

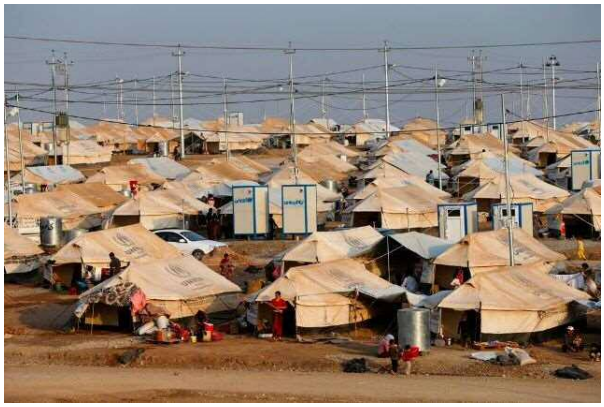
本校には、２０２３年度２０人の外国人生徒が在籍している。学区には、外国人従業員も住めるトヨタ自動車の社宅があり、身の回りには多くの外国人が生活している。本校の生徒もほとんどが外国人に接したことがあると答える。ただ、言葉や生活習慣などから壁が生まれ、コミュニケーションがうまくとれないという声もよく聞く。調査委員会による調査では、外国人生徒も生活習慣や人間関係に困っているという結果が出ている。そこで、誰もが尊重され、皆が暮らしやすい街を築いていけるように「外国人が住みやすい街にするには？」というテーマで中学１年生道徳科の授業を実践することにした。

２　豊田市立末野原中学校での実践　～外国人が住みやすい街にするには？～

（１）移民と難民の違い

豊田市には約１９,０００人（2022 年５月）の外国人が生活している。外国人が住みやすい街について考える前に、生まれ育った国を離れ、他国に移動して住む人々の種類について学習する時間を設けた。

<戦争や暴力から逃れるため　人数超過のゴムボートで地中海を渡る様子>



<イスラム国の制圧から避難した　人たちが集まる難民キャンプの様子>

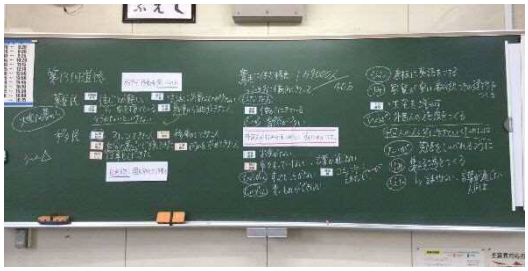
難民が国境を越える様子と難民キャンプの写真を生徒に見せ、どのような様子が撮影されたものかを考えさせる。意見を発表、共有した後、事実を伝える。そして、外国人には移民（外国人労働者）と難民の種類があることを教える。

ただし、難民は日本人には馴染みが薄いこと、その理由を伝え、豊田市で生活する外国人もほぼ移民（外国人労働者）であることも合わせて伝える。

（２）豊田市に外国人が多い理由

（１）でも紹介したように、豊田市には約１９,０００人の外国人の方が生活しており、国籍数は約７０となっている。この数は今後も増加が予想されている。国別でみると、ブラジル籍が全体のおよそ３分の１を占めている。

そこで「豊田市ではなぜ外国人が多いのか？」について考える時間を設けた。生徒からは「トヨタ自動車関連で働く人が多いから」「給料の高い日本へ働くために来ている」という経済的な意見が多くみられたが、なかには「治安がよいから」や「自然が多いから」など、地域の特性やよさに気付かされる意見もあった。



<生徒たちの意見が書かれた黒板の様子>

豊田市だけでなく日本全国各地でいえることだが、この先外国人と共生していくことが必要不可欠になるだろう。そこで、故郷を離れ豊田市で暮らす外国人の方が住みよい街にするために、また、共生していくために必要なことについて考えることにした。

（３）外国人が住みやすい街にするには？

はじめに、豊田市で暮らす外国人の方がどのような不安をもっているのか、どのようなことに困っているのかについて、調査委員会による調査結果を取り入れながら、生徒にいくつかの例を紹介した。日本語に関することや日本の文化に関することなどである。そして、この不安感、困り感を解消するための方法について生徒に考えてもらった。不安感、困り感を解消することが、外国人が住みやすい街づくりにつながると考えたからである。

考えを共有できるように、話し合いはグループで行った。「日本語の習得が十分でないこと」に対しては「街の看板やレストランのメニュー表などに英語翻訳を付けること」や「相手の言語を習得できるように私たちも努力する」といった考えや意見が上がった。また、「文化の違いに関すること」については、「地域の日本人との交流会があるとよい」や「外国の文化を知るためのイベント等があれば積極的に参加し学びたい」など、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲がみられた。

３　おわりに

今回の授業の振り返りで「外国人と共に生きていくために、自分ができることは何だろうか」について、生徒に記入してもらった。そのなかに「外国人の方とコミュニケーションをとるために、まず基本的な英語の習得」という意見があった。このような毎日でも取り組めそうな簡単な内容を継続することが、外国人の方たちの不安感、困り感を解消し、お互いに住みやすい街づくりにつながるのではないかと感じた。

生徒がこれから生きる時代は、さらに外国からの移民も増え、今以上に多様で共生が必要な社会となっていくだろう。その担い手を育てるためには、今回の実践で考えた内容だけでなく、他の分野においても国際理解教育を実践していくことが必要だろう。実践を積み重ねることで、生徒、教員ともに国際理解に関する更なる意識向上を図ってほしいと願う。

資料　中学１年生道徳科指導案

「外国人が住みやすい街にするためには」

（１）本時のねらい

・生まれ育った故郷を離れて暮らす外国人が、どうして日本に来ているのかを知る。

・異なる文化をもつ外国人と共に生きていこうとする態度を育てる。

（２）準備物：ワークシート、プロジェクター、タブレット

（３）本時の流れ

時間	指導の流れ	教師の支援
１５分	１．写真を提示して、移民と難民の違いを考える 移民：本来の居住国を離れ、国境を越えて移動をする。外国人労働者も含む。＜自発的＞ 難民：紛争、迫害など自発的な理由なしで、移動を強いられる。	・移民と難民について考えやすくするために、難民が海を渡る写真と、難民キャンプの写真を提示する。 ・難民が置かれている状況を理解できるように、イスラエルでの紛争を紹介する。
３０分	２．日本に住む移民・難民について考える ・日本には、移民・難民はいるのだろうか。 →日本には移民が多い。 ・日本に住む難民が少ないのはなぜか。 ３．豊田市に住む外国人はどれくらいいるのかを知り、なぜ豊田市に住んでいるのかを考える →トヨタ自動車へ働きに来ている。 →安全だから。 **外国人が住みやすい街にするためには** ４．外国人がより住みやすい日本や豊田市にするためにはどうすればよいかを考える ・日本に初めて来た外国人は、どんなことが不安に思うか。 ・不安を解消するための方法は何か。	・学習課題を理解するために、豊田市にはたくさんの外国人が住んでいることを伝える。 ・外国人が不安に感じる点について気付けるように、言語や文化の違いについて例を挙げる。 ・外国人と共生する方法について考えを共有できるように、グループで話し合う場を設定する。
５分	５．本時のまとめをする ・外国人と共に生きていくために、自分ができることは何だろうか。	・外国人との共生への意識を高めるために、自分にできることを考えるよう投げかける。

資料　**ワークシート**

　　月　　日（　　）名前

中学１年生道徳科　第　　回「　誰もが住みやすい共生社会を目指そう　」

１．下の写真は、何の様子を撮影したものだろうか。

２．（　　）と（　　）の違いは何だろう。

（　　）

（　　）

＊学習課題＊

外国人が住みやすい街にするためには

＊振り返り＊（４よくできた　３できた　２あまりできなかった　１できなかった）

①　積極的に授業に取り組めた。 （発言、ワークシートへの書き込み、話し合いなど）	
②　今日の授業内容は ４よくわかった　３わかった　２いまいち　１分からなかった	
③外国人と共に生きていくために、自分ができることは何だろうか。	

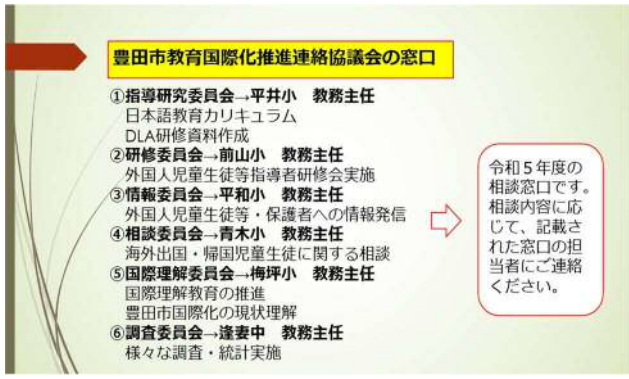
Ⅲ　５分でできる現職教育

第３次豊田市国際化推進計画を参考に豊田市の国際化の現状と外国人児童生徒等の理解を深めるために、学校でできることを考えました。学校の現職教育で使用していただけるパワーポイントを作成しました。外国人児童生徒への理解を深めることで、誰一人取り残さない教育の実現をめざしましょう。

パワーポイントの一例を紹介します。ＯＪＴの資料として、ご活用ください。

１　豊田市の国際化の現状

２　外国人児童生徒等の理解の推進



３　TIA の活用

この資料を使用した研修後、外国人児童生徒が在籍する学級担任からの申し出で、ＤＬＡを受けた学校もあります。児童生徒の実態を把握することから始め、どのように指導していけばよいか、考えることができるようになります。

※指導案、ワークシート、パワーポイントは、
POTETO＜共有フォルダ＜「●国際協　国際理解委員会●」
に、保存してあります。ご活用ください。

Ⅳ　令和５年度　国際理解教育に関する実態調査（結果）　R5.9 実施

設問Ⅰ　令和５年度　実施した国際理解教育に関する活動内容

（複数回答可）

		小学校	中学校
1	外国人を学校に招待し、ふれあい交流や異文化体験する。	7	3
2	教科・特別活動・学級活動等で、外国について学習する。	７５	２６
3	外国人講師を招き、児童生徒や保護者に講演を行う。	2	1
4	外国人と文通や作品、写真、ビデオなどの交換をする。	2	2
5	外国人とスポーツ交流する。	1	0
6	在校児童生徒以外の外国人児童生徒が、一緒に学習したり、家庭に滞在したりして交流する。	0	1
7	在校外国人児童生徒が食文化や伝統、生活の違いについて紹介したり、スポーツ交流したりする。	3	0
8	在校帰国児童生徒が、食文化や伝統、生活の違いについて紹介する。	4	2
9	自校の外国人児童生徒の保護者が母国の食文化や生活習慣等を紹介し、伝統や文化の違いを学習する。	1	0

＜その他＞

小学校

・日本人と外国人が気持ちよく過ごせるための方法を考え、外国人に紹介する。
・ＡＬＴや保護者の英語ボランティアによる英語の本の読み聞かせを行う。
・ＡＬＴ（自校・他校）の母国の文化を学び、ゲームなどを通して触れ合う。
・生活委員会活動で、ワールド挨拶運動をする。
・６年生の外国語の授業で、世界各国（ガーナ、カンボジア、ウガンダ、東ティモール、ケニア）の小学校の様子やその国の児童の宝物についての紹介ビデオを送ってもらい、授業の中に取り入れる。また、ビデオを送ってもらった子たちへ返信する目的で本校児童も自己紹介ビデオを制作する。
・２年生の国語の授業で、本校の児童の質問をもとにカンボジアとガーナで活動や生活した経験のある教員がパワーポイントを使用して、写真や映像でその様子を紹介する。

中学校

・オンラインでカンボジアの中学生と鶴を折って交流する。
・ＴＩＡの方を講師として招き、マイクロアグレッションや、やさしい日本語について学ぶ。
・外国語科の授業で海外の文化について伝えながら進めていく。
・海外派遣生徒のまとめを全校で発表する。

設問Ⅱ　国際理解教育に関する活動の実施形態

（複数回答可）

		小学校	中学校
1	全校児童生徒が実施。	１４	7
2	全校児童を低学年・高学年に分けて実施。	1	
3	全校児童を低・中・高学年に分けて実施。	2	
4	学年別に実施。	４３	１４
5	学級別に実施。	３６	１３

<その他>

小学校

・国際教室の日本語学習の一環で実施。
・中学年・高学年で実施。
・高学年で実施。
・3 年生か 6 年生で実施。

中学校

・希望する生徒。

設問Ⅲ、Ⅳ　外国の方との交流、外部機関との連携

学校名	実施時期	国名	内容　★外部機関
前山小	12 月	インドネシア	文化を学ぶ。
平井小	12 月		5 年生が研修生の方と交流する。 ★オイスカ
矢並小	1 回目　9 月 2 回目　9 月	オーストラリア	現地に住む方の自己紹介を聴いたり交流活動を行ったりする。
若園小	1 月		国際委員会が異文化紹介をする。
竹村小	4 月	ベルギー	昨年 2 週間交流で訪問した児童と手紙交換をする。
伊保小	7 月	カナダ	５・６年生が中京大学の世界水泳選手に泳ぎを見せてもらったりインタビューをしたりする。最後に応援と全校からのメッセージ入りの国旗をプレゼントする。 ★スポーツ振興課
西広瀬小	1 回目　10 月 2 回目　12 月	アメリカ	生活習慣、伝統文化、ハロウィンなどについて学び、交流する。 食文化、現地のクリスマスの様子などについて学び、交流する。
幸海小	5 月	アフリカ	現地の方からティンガティンガについて学び体験する。
岩倉小	2 月		「世界といのちの教室」 ★国境なき医師団、ＪＩＣＡ
九久平小	10 月	フィリピン 中国	現地に住む方からの自己紹介。　★ ＴＩＡ
豊松小	９月	フィリピン	フィリピンの文化を学び、クイズやゲームを通して理解を深める。
東山小	通年	アメリカ シンガポール	ＡＬＴから母国の文化等を学ぶ。
若林東小	12 月	フランス	5 年生が食文化や生活習慣について学ぶ。 ★ ＴＩＡ
土橋小	1 回目　10 月 2 回目　12 月	インド	ボランティア活動の映像を視聴する。 支援物資を喜ぶ映像を視聴する。　★ＩＶＧ
道慈小	11 月		京都・奈良の旅行者にインタビューする。
追分小	9 月	フランス	食文化や生活習慣について学ぶ。　★ ＴＩＡ
則定小	1 月	ルワンダ	自己紹介や各国紹介。　★ＪＩＣＡ
小渡小	1 回目　6 月 2 回目　12 月	台湾	現地の小学校とテディベア自己紹介カードを交換して交流する。 現地の小学校とオンライン交流をする。
浄水北小	12 月	メキシコ	現地出身の方（同じブロック校のＡＬＴ）と季節・行事について紹介し合う。
四郷小	６月		京都・奈良の旅行者にインタビューする。
浄水小	12 月	フィリピン	文化や生活についてオンラインで学ぶ。

学校名	実施日	国名	内容　★外部機関
大沼小	９月	ブラジル	国や文化の紹介を聞く。　★ ＴＩＡ
五ケ丘東小	４月	フィリピン	学校生活や食べ物、文化の違いを知る。
保見中	６月		マイクロアグレッション、やさしい日本語について学ぶ。　★ＴＩＡ
竜神中	10 月	イギリス	同学年の生徒とオンライン交流をする。　★国際まちづくり推進課
末野原中	１月	ウクライナ	１年生が学生と交流する。　★オイスカ
藤岡中	７月	アメリカ	オレゴン州からの留学生７名と教員１名が来校し、交流する。２年生は給食の時間も一緒に過ごす。　★加茂丘高校
旭中	10 月	カンボジア	オンラインで鶴を折る交流をする。　★とことこあーす株式会社

★オイスカ　公益財団法人オイスカ　中部日本研修センター
★ＴＩＡ　豊田市国際交流会
★ＪＩＣＡ　独立行政法人国際協力機構
★ＩＶＧ　国際ボランティア団体

6　研修委員会活動報告

Ⅰ　第１回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と今後の課題

Ⅱ　第２回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と今後の課題

Ⅲ　第３回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と課題

Ⅰ　第１回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

１　研修会の概要

（１）日　時　令和５年６月１３日（火）
（２）場　所　豊田市教職員会館
（３）内　容　全体研修（講義）　グループ別研修（ワークショップ型）
（４）参加者
　　小学校　３６名　　中学校　１４名　　その他　４名

２　研修会の内容

（１）全体研修（講義）
「外国人児童生徒等教育の現状・特別の教育課程による日本語指導について」
豊田市教育委員会　学校教育課　渡邉　温嫁　指導主事
「豊田市教育国際化推進連絡協議会について」
豊田市教育委員会　学校教育課　村瀬　春奈　指導主事
「ＤＬＡを指導に活かす　～「話す」「読む」を中心に～」
豊田市立西保見小学校　伊藤　敦子　先生

ア　伊藤敦子先生の講義内容

対話型アセスメントであるＤＬＡは、画一的な学年テストでは把握することのできない子どもの強みと弱みを知ることや、必要な支援方法を知ることをねらいとしている。そのＤＬＡを外国人児童生徒等の指導に活用するためには、まずやってみることが大切である。ＤＬＡの実施にあたっては、①必ず録音・録画をすること②机の配置に気を付けること③子どもの顔を見て笑顔で会話をすること④テンポよく進めること⑤その場で採点しないこと⑥必ずほめることなどを意識することが大切である。

ＤＬＡは、検査の進め方の参考情報を得るための導入会話である「はじめの一歩（語彙力チェック）」でステージを予測し、「話す」「読む」「書く」「聴く」の結果からステージを判定する構造になっている。検査には本人の性格等の影響も出ることがあり、「はじめの一歩」の段階で検査の継続が難しい場合などは途中で終了することも考えておくとよい。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・昨年度の研修に参加したことでＤＬＡの存在を知ってはいたが、実際にどのように検査を進めていくものなのか具体的に分からなかった。今回の研修で実際にＤＬＡを実施している様子を動画で見ることができてイメージが湧いた。

・ＤＬＡを行う際に気を付けるとよいポイント（子どもが答えられないときに、質問の文言を変えずに３回ぐらい繰り返すなど）を知ることができてよかった。
・ＤＬＡを行うためのツールはどこで借りることができるのか知りたい。
・ＤＬＡを実施してくれる方を派遣していただくことができるのか知りたい。

（２）グループ別研修（ワークショップ形式）

ア　研修内容

豊田市教育国際化推進連絡協議会の今年度の取組である「ユニットアシスト制の導入」に基づき、参加者を「集住共生」「散在受入」「帰国出国」「国際理解」のユニットごとのグループに分け、各グループ内で指導研究委員の先生を講師としたワークショップ形式の研修を行った。

ホワイトボードで授業形式の研修を行うグループや、ＤＬＡ実施の動画を観ながら感想を共有するグループ、ふせんを活用したＫＰＴ法でよりよい支援方法を話し合うグループなど様々な形式が取り入れられた研修となった。

イ　参加者の声

・全体会で視聴したＤＬＡの動画についての、さらに詳しい解説を聞くことができて勉強になった。
・グループリーダー（指導研究委員）の先生から、Teams でＤＬＡの資料をいただくことができたので早速活用したい。今回のワークショップ用につくっていただいた Team を今後も継続していただけるとのことなので、情報共有をして多くのことを学びたい。
・今回のワークショップでご教示いただいた意見を、自校に戻ったときに、だれに相談したらうまく実践できるか難しい面がある。

３　成果と今後の課題

ＤＬＡを行うにはハードルが高いと感じていた参加者にとって、伊藤敦子先生の講義は「ＤＬＡをやってみよう」と背中を押していただける内容であったと感じる。また、グループ別研修では、指導研究委員の先生の実践をもとにしたワークショップを通して、参加者が日頃抱えている困り事や、よりよい支援のための方策について話し合うことができた。この学びの機会を豊田市の外国人児童生徒等の支援に役立てていくためには、この研修の参加者が自校でのＯＪＴを行うことはもちろん、今は外国人児童生徒等との関わりがない先生方にも、このような研修に足を運び問題意識をもってもらうことが大切であると感じた。

Ⅱ　第２回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

（１）日　時　令和５年７月１９日（水）
（２）場　所　豊田市教職員会館
（３）内　容　全体研修（講義）　グループ別研修（ワークショップ型）
（４）参加者　小学校４１名　　中学校１４名　　その他５３名

2　研修会の内容

（１）全体研修（講義）
「取り出し授業で意識していること」
豊田市立挙母小学校　学校日本語指導員　丸山　輝美　先生

日本語指導においては、「楽しく分かる　分かって楽しい」が重要である。「目（見て分かる）・口（話して分かる）・手（書いて分かる）・体（動いて分かる）・耳（聞いて分かる）・頭（考えて分かる）」を全て使う指導を心掛けてほしい。

誰でも、いつでも、これを使えば指導できるものをと思い「言葉ワーク」を開発した。この言葉ワークを活用し、先行学習を行っている。２時間の先行学習で、その単元の学習に必要な言葉を身に付けて、クラスの授業に参加することができる。

５年「文の組み立てをとらえよう」の授業で使用した言葉ワークには、カラーのイラストを多く用いたり、漢字にルビを振ったり、様々な工夫がされている。また、単元の導入授業では、「組み立て」の概念を教えるのに、具体物である積木を実際に組み立てる。そうすることで、目には見えない日本語の意味を理解することに繋がる。

（２）グループ別研修

第１回でのＤＬＡからの学びを生かした実践報告・講師の講義を受けて取り組みたいことについて、A～E のグループに分かれ、研修会を行った。

・Ａグループ　各校の外国人児童生徒への対応について情報共有
・Ｂグループ　講師のお話を受けてグループ討議（参考になったこと・疑問等）
　　ＤＬＡの研修会を受けてその後の指導についての悩み共有
・Ｃグループ　ＤＬＡの結果を生かした授業について検討
・Ｄグループ　ミニ講義を行い、子どもの実態把握について理解を深め、ＤＬＡの結果から見える支援の方法
・Ｅグループ　取り出し指導の際の指導の工夫

（３）参加者の声（振り返りシートより）

ア　丸山先生の講義を聴いて

・楽しくわかりやすい授業を拝見しました。用語を分かりやすいことばで繰り返して、身振り手振りを使って子どもたちと一緒に行う楽しい授業でした。とても勉強になりました。

・外国人児童生徒をはじめ、特別な支援を要する子たちの立場に立って物事を考え、その子たちが「いない」と感じることのないようにしていきたいと思いました。また、そんな教員であるべきことを職員に伝えていきたいと思います。

イ　グループ別研修（ワークショップ型）の内容から

・この単元で何を学ばせるのか、担任との連携が大切であると感じた。

・入り込みをすることで、子どものクラスでの雰囲気がわかる。

・子ども一人ひとり違う個性を持っていて、どの指導員の方もその一人と向き合っていろいろな事情に配慮して指導・支援をされていることがわかりました。

ウ　日頃感じている困りごと・希望や支援のアイデアなど

・日本語理解の能力にかなりばらつきのある児童を複数同時に支援に取り出す場合、それぞれのレベルに合ったものを学習したいと思うが、限られた時間の中でそれを行うのが難しい。

・言語のみならず、環境や家庭が難しいところもあるので、総合的なサポートをしていきたい。

・学校を休みがちで指導する時間がとても少ない。指導の積み上げができない子にはどのように指導していけばよいか日々困っている。

３　成果と今後の課題

丸山先生の講義の中で、「クラスの中で、その子が『いない』と感じることがないようにしてほしい」という言葉があった。そのために、板書とプリントが同じになっているなどユニバーサルデザインの授業を取り入れること、担任との連携が大切であるということを感じた。また、グループ別研修では、ＤＬＡの実施から、子どもの強みと弱みを見つけることで支援につながることに、実践を通して感じている参加者が多くいたように思う。グループで協議や検討を行い、目の前の子どもに合った指導を考えるよい機会となった。

一方で、それぞれの学校で抱える課題について、共有するグループも多くあった。欠席の多い児童生徒への対応の仕方、能力のばらつきがある児童生徒の複数同時指導など、日頃感じていることを話す場ともなっていた。日本人と共に外国ルーツの子どもたちが生き生きと生活や学習ができるように、今後もそれぞれの立場で指導方法や支援の検討、共有、改善を図っていきたいと感じる研修となった。

Ⅲ　第３回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

（１）日　時　　令和５年８月２２日（火）
（２）場　所　　豊田市教職員会館
（３）内　容　　全体研修（講義）
（４）参加者　　小学校　３４名　　中学校　１１名　　その他　４８名

2　研修会の内容

（１）日本語指導（教科学習等）で活用できる教材について
外国人児童生徒等サポートセンター　　平吹　洋子アドバイザー

ア　講義内容

増え続けている外国人児童生徒。学習サポートの需要も高まり、様々な指導法が工夫されている。サポートセンターには、リライト教材（ポイントを押さえ、読みやすい日本語で書かれた文）、ルビ付き教科書、自作の教材（言葉ワーク等）、ワークシート、ドリル等の教材がある。実物、絵や写真などを提示する視覚支援や、例を示して会話の練習を行う指導等も行っている。外国人児童生徒が、必要なサポートを受けやすいようにするため、教材が POTETO に掲載されていたり、サポートセンターに教材が保管されていたりしている。多くの先生方に活用してもらいたい。

イ　参加者の声（振り返りシートより）
・ルビ付き教科書は、漢字が苦手な児童でも、「自分で読もう」という意欲につながっている。よい教材なので、今後も活用していきたい。
・紹介していただいた教材を積極的に活用したい。それぞれの学校で作成した教材があれば、お互いに活用できるシステムがあったらよいと思う。

（２）「ＮＰＯ法人トルシーダ」の活動について
ＮＰＯ法人トルシーダ　宇野　光　様

ア　講義内容

外国につながる子どもや若者があたりまえに学べ、活躍できる社会づくりを目指して始まったトルシーダの活動。就職や進学に向けてのサポートを行うため、地域や学校と子どもたちを繋ぐため、主に＜資料①＞

プレスクール（豊田市教育委員会委託事業）	１年生になるための準備をする教室
日本語教室（豊田市国際まちづくり推進課委託事業）	公立学校に通えない子たちの教室（居場所＆高校進学のため）
進学クラス	日常会話を理解できるようになるための教室
土曜日教室	日本語での学習支援の教室
豊田西高校	定時制課程での日本語教室

＜資料①　トルシーダの主な活動＞

のような教室を開設している。この他にも、キャリアサポートを行っていて、適性検査をしたり、職場見学、体験などを行ったりしている。なりたい自分を目指し、希望をもってステップアップしていけるよう、トルシーダは様々な支援を続けている。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・「外国人たちのためにやれることは？」を常に考えて行動していることが分かった。進路や将来のことを一緒に考えてくれて、心強いと思った。

・一人一人の状況にあった居場所があって、行事もあり、まるで学校のような感覚で楽しく日本語が学べる。該当生徒に勧めたいと思った。

（３）国際まちづくりの方向性について

国際まちづくり推進課　　近藤　裕里　様

ア　講義内容

〈資料②　１０のポイント〉

豊田市の外国人人口は約 2 万人。総人口の４.６％を占めている。多様な市民が活躍できる国際まちづくりの推進を目指し、「多文化共生のまちづくりの推進」「国際化に対応した人づくりの推進」を施策の柱として、第３次豊田市国際化推進計画が進められている。誰もが尊重され暮らしやすい街の実現のために、日本語学習、多言語による情報発信、相談対応や子育て、防災、就労などの支援を行っている。また、国際社会や地域社会で活躍できる人材の育成を図るため、外国との交流活動や国際理解教育も行っている。相互理解や意思疎通に関する条例も制定され、「誰にでもわかりやすく伝えるための１０のポイント」＜資料②＞を作成し、活用できるよう啓発活動をしている。

日本の子どもたちへの教育の充実が図れるよう、幼児向け日本語教室や児童生徒への日本語指導や学習支援、とよた日本語学習支援システムの運営など、多様な市民が安心して暮らせる街づくりを目指し、さまざまな面から市民を支えている。

３　成果と課題

外国人が安心して暮らせる街づくりは、誰もが安心して暮らせる街づくりに繋がる。いろいろな立場の人や団体が力を合わせ、その実現のために努力されていることを知り、みんなで手を取り合っていくことが大切であると改めて感じた。義務教育で配慮を受けてきた児童生徒も、高校では支援を受けられなかったり、小中学校では、まだまだ指導、支援の方法に悩んでいたりする。課題は山積みであるが、今後も検討を重ねたい。